

昭和 43 年 度

地力保全基本調査成績書

〔紋別地域 雄武町〕

北海道立中央農業試験場

5

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成積書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表す。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3課）による。

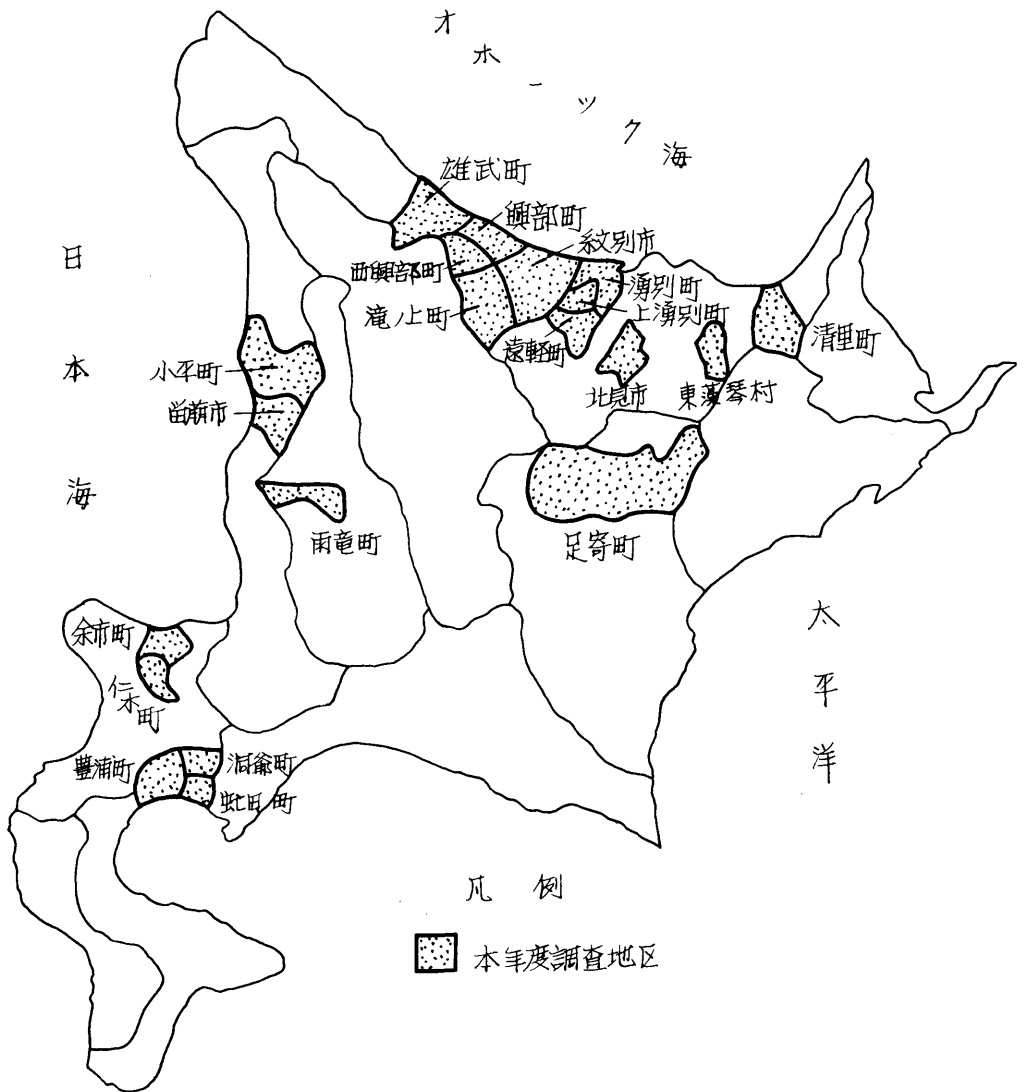
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部 俊 雄
土壤改良科	科 長	後 藤 計 二
"	第 1 係 長	小 林 荘 司
"	研 究 職 員	水 元 秀 彰
	"	伊 東 輝 行
	"	木 村 清
	"	松 原 一 実
	"	坂 本 宜 崇
		(現 在 ・ 天 北 農 試)
	第 2 係 長	大 垣 昭 一
	研 究 職 員	小 林 茂
	"	官 脇 忠
	"	山 本 晴 雄
	"	高 橋 市 十 郎
	"	上 坂 晶 司
	第 3 係 長	高 尾 欽 弥
十 勝 農 試		
土壤肥料科	研 究 職 員	菊 地 晃 二
	"	関 谷 長 昭
北 見 農 試		
土壤肥料科	研 究 職 員	秋 山 喜 三 郎

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上 湧 別 町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西 興 部 町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝 幸 ・ 雄 武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝 ノ 上	滝 ノ 上 町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網 走 湖 畔	東 藻 琴 村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞 爺 湖 畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後 志 北 部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

調査地区位置図



紋別地域 雄武町

1 地区の概要

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 網走支庁管内、紋別郡雄武町

(2) 調査面積

郡 市 町 村 名	農地総面積 (ha)				調査対象面積 (ha)			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
紋 別 郡 雄 武 町	0	2,794	0	2,794	0	2,794	0	2,794

過年度調査面積 (ha)				本年度調査面積 (ha)				次年度以降調査面積 (ha)			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
0	0	0	0	0	2,794	0	2,794	0	0	0	0

2) 気 候

北部オホーツク海に面するため海洋の影響を強くうけて一般に冷涼な気候を呈する。春季はいわゆるひかた風が吹き続き、農期間の平均気温15℃内外、積算気温2,300℃である。しかし無霜期間はやや長く、初霜10月19日、晩霜5月17日。秋は降雨量少く比較的好天に恵まれるが気温は低い。また春先は天候が悪くまた融雪も遅く春耕は一般に遅い方である。オホーツク海の気団の影響で夏季しばしば低温にみまわれて冷害凶作となる。

雄武気象観測所の観測成績は次の通りである。

項目	月別												全年	統計年数
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
平均気温	-7.8	-7.1	-3.3	4.0	8.6	11.1	15.9	18.0	15.3	9.2	1.5	-3.6	5.1	10
日最高の平均	-4.4	-3.4	0.4	8.3	13.2	14.6	19.1	21.2	19.7	14.0	5.4	-0.4	9.0	10
日最低の平均	-12.0	-11.6	-7.3	0.0	4.2	7.8	13.0	15.2	11.2	5.0	-2.4	-7.2	1.3	10
降水量	66.6	49.8	56.7	50.1	72.8	92.9	114.6	114.1	110.7	82.0	70.9	48.6	959.7	10
降水量1.0mm以上の日数	13.2	10.4	10.4	8.7	8.6	10.8	11.2	12.1	10.6	11.4	10.7	10.3	128.4	10
快晴日数	1.7	1.9	3.2	4.9	3.7	3.3	2.3	2.9	4.3	5.6	2.3	1.4	37.5	10
曇天日数	16.0	13.8	13.5	11.5	15.1	18.4	20.3	20.6	12.2	11.1	11.8	14.5	178.8	10
日照時間	88.2	109.7	166.1	198.1	189.6	158.8	146.3	139.2	171.7	159.8	111.3	88.6	1727.2	10
不照日数	6.1	4.3	4.3	3.7	7.1	7.3	9.1	8.7	4.1	3.9	4.3	5.6	68.5	10
風速	4.7	4.9	5.1	5.8	5.4	3.5	3.1	3.5	4.5	4.8	4.7	5.0	4.6	10

3) 土地条件

(1) 地 形

本調査地区の大部分はオホーツク海に沿って分布し、海岸から直ちに段丘となつている。この段丘は海岸から内陸に向つて次第に標高を増し、少くとも3つの段丘を形成して丘陵性山地に連つている。これら段丘を山地から発する無数の河川が寸断してオホーツク海にそそぎ、その流域には小

規模な低平地が形成され、一方では解析による波状性地の形成が見られる。

河川の中でもやや大きい雄武川、幌内川は20～40kmの奥地まで流域に低地がみられ、また小規模な段丘地形が存在するため農耕が営まれている。

(2) 地 質

海岸線に沿って分布する標高20～100mの段丘地は砂礫、粘土を主材とする洪積層で、一般に粘土を母材とする土壤が多い。これは下層が極めて堅密であり、また一部は重粘のため透水がきわめて悪くいわゆる重粘地土壤が生成されている。この奥に連なる波状性傾斜地や丘陵性山地は主として安山岩から構成され、これを割って流れる河川の両側には洪積層を基盤とする河成段丘が分布し、その周辺には泥岩、砂岩、雑色礫岩を主とする三紀層の波状地が存在している。

この波状地および段丘地を切つて流れる河川の流域には安山岩、三紀層の泥岩、雑色礫岩を母材とする沖積土が分布し良好な畑地となっている。しかし下流の一部は地下水位高く低湿地になっている。

(3) 侵蝕状況

段丘地は標高の高まるにつれて波状地形が強まり、水蝕発生のおそれがあり、また標高70～100m以上の丘陵地は波状性傾斜地が多く水蝕発生のおそれが多い。しかし本調査地区は草地が多いため一般畑地に比して水蝕の程度は小さい。

(4) 交通状況

海岸沿いに国道が走り、これより各河川に沿って町道が幾条にも内陸に向つて延びている。しかし台地や丘陵地には環状道的ものが見られるが、砂利敷き等の整備はあまりよくない。最近自動車の増加につれて道路状況は一般によく来てきているが、台地や丘陵地の道路整備は今後更に進めることが必要であろう。

4) 土地利用及び利用状況

a) 経営面積

総面積	田	普通畑	樹園地	計
7.5	0	7.5	0	7.5

b) 作付面積

作物	水稲	麦類	豆類	馬鈴薯	ビート	牧草	その他
面積	0	0.46	0.15	0.80	0.20	5.78	0.1

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	縄羊	鶏
飼養頭数	337	2,732	606	132	4,343
飼育戸数	273	279	55	52	184
1戸当平均飼育頭数	1.2	9.8	11.0	2.5	23.6

d) 労働の関係(1戸当人数)

家族人数	労方換算	季節雇	臨時雇
5.0	2.4	0.1	3.7

本町は北部オホーツク海に面する気候冷涼な地帯なため草地農業が推奨されている。したがって一般畑作は主として馬鈴薯、ビート程度でその栽培面積は少く、栽培地域は河川の流域に分布する沖積土に限られているようで、他の大部分は牧草および飼料作物によつて占められている。近年酪農経営が着実に進められ、自立経営が確立されようとしているもの、あるいは大規模経営形態の整つた経営体がみられ、またルーズハウジング方式を採用した共同経営体の出現等草地農業の充実がみられるが、一面戦後開拓による大量の入植者や自立経営規模まで達しない農家も相当数みられる。これらは気象条件の劣悪さに加えて立地条件、土壌条件等の不利が大きな隘路になつていて戸毎の農家の経済的力をもつては急速な経営の発展に困難性があるものと考えられる。特に重粘土土壌の改良は排水、心土破碎、客土、土壌改良資材の大量投入等莫大な資金を要し、更に草地造成後の草生の維持管理に対する問題もある。今後大規模草地の造成等土地利用度の高揚と相まつて土地改良、土壌改良を基礎として安価な草を如何に多く生産するかが最大の問題であろう。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		堆積様式	母材
					表層	次層		
幌内西	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	強粘質	粘質	残積	安山岩、流紋岩
元沢木	" / "	"	"	"	"	強粘質	"	"
沢木西	" / "	"	"	"	"	"	"	安山岩
雄武西	" / "	"	"	"	"	"	"	砂岩(三紀層)
音稲子府西	" / Y	"	"	あり	"	粘質	"	流紋岩
電柱山	" / YR	"	なし	なし	"	強粘質	"	安山岩質
上雄武	" / "	"	"	あり	"	"	"	礫岩(雑色礫岩)
音稲子府	" / "	"	"	なし	粘質	"	洪積	非固結水成岩
幌内東	" / "	"	"	"	強粘質	"	"	"
沢木	" / "	表層腐植層なし	"	あり	粘質	粘質	"	"
上幌内	" / "	"	"	"	強粘質	強粘質	"	"
栄岡	Y / Y	表層腐植層	"	"	"	"	"	"
音稲子府東	Y / GY	表層多腐植層	"	"	"	"	"	"
中雄武	YR / "	"	"	"	"	"	"	"
雄武南	" / YR	表層腐植層	あり	なし	"	粘質	水積(河成堆積)	"
雄武	" / "	"	"	"	"	"	"	"
下雄武	" / Y	"	なし	あり	"	強粘質	"	"
御西	" / "	表層多腐植層	"	"	"	"	"	"
元稲子府	" / GY	"	"	"	"	"	"	"
中幌内	" / Y	表層腐植層	あり	なし	粘質	粘質	"	"
コイトイ	" / YR	全層多腐植層	なし	"	強粘質	強粘質	集積	ヨシ、スゲ

(2) 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積(ha)	備 考(調査面積)
幌 内 西 - 幌 内 西	Ⅱfs Ⅱtdpne	199	1,989
元 沢 木 - 元 沢 木	Ⅱtds Ⅱgpfnie	52	527
沢 木 西 - 沢 木 西	Ⅱfs Ⅱtdpne	9	90
雄 武 西 - 雄 武 西	Ⅱtdpfmse	13	133
音稲子府西 - 音稲子府西	Ⅱwfn Ⅱtdps	36	360
電 柱 山 - 電 柱 山	Ⅱpf Ⅱtdgse	57	577
上 雄 武 - 上 雄 武	Ⅱts Ⅱpfne	54	540
音稲子府 - 音稲子府	Ⅱtn Ⅱpfse	437	2,052
幌 内 東 - 幌 内 東	Ⅱfn Ⅱtp	73	341
沢 木 - 沢 木	Ⅱpfn Ⅱtdws	206	971
上 幌 内 - 上 幌 内	Ⅱtdpf Ⅱwnis	39	183
栄 岡 - 栄 岡	Ⅱpwfn Ⅱtds	911	4,277
音稲子府東 - 音稲子府東	Ⅱpwf Ⅱtn	262	1,233
中 雄 武 - 中 雄 武	Ⅱw Ⅱtp	7	30
雄 武 南 - 雄 武 南	Ⅱtdp	70	330
雄 武 - 1	Ⅱd Ⅱtpfni	141	663
雄 武 - 2	Ⅱd Ⅱtp(w)fni	57	270
雄 武 - 3	Ⅱd Ⅱtpfni	48	226
下 雄 武 - 下 雄 武	Ⅱw Ⅱtpfn	45	210
御 西 - 御 西	Ⅱw Ⅱtpfn	21	98
元稲子府 - 元稲子府	Ⅱw Ⅱtpfn	25	118
中 幌 内 - 中 幌 内	Ⅱd Ⅱtgpfnis	5	18
コイトイ - コイトイ	Ⅱwf Ⅱtn	27	129

幌 内 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量8%前後、土性はLiCが主である。風化細小半角礫を含む。色は7.5YRで彩度2、明度4のものが多く、細粒状構造で発達程度は弱度のものが多く、細小孔を含む。pH(H₂O)5.0~5.5、ち密度1.2~1.8で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ25cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。風化細小半角礫を含む。色は7.5YRで彩度6、明度5のものが多く、細塊状構造で発達程度は中程度で細小孔に富む。ち密度1.8~2.2で疎~中、pH(H₂O)5.0~5.5、下層へは波状漸変する。

第3層は厚さ25cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。半風化小中半角礫(脆弱な安山岩)に富む。色は7.5YRで彩度5、明度6のものが多く、塊状構造と細塊状構造の複合構造で発達程度はやや中程度である。細孔を含む、ち密度2.0~2.4で中、pH(H₂O)5.5前後、下層

へは波状漸変する。

第4層は地表下概ね6.5cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。半風化小中大半角礫(脆弱な安山岩)に頗る富む。色は7.5 YRで彩度5、明度6の場合が多い。塊状構造で発達程度は弱度で、細孔を含む。ち密度2.2~2.6で中~密である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字幌内北 試坑No.1(2)

第1層	0~14cm	腐植に富む灰褐(7.5 YR 4/2)のLiC、風化細小半角礫を含む。発達弱度の細粒状構造、細小孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	14~40	腐植を欠く明褐(7.4 YR 5/6)のCL、風化細小半角礫を含む、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	40~65	腐植を欠く橙(7.5 YR 6/5)のLiC、半風化小中半角礫に富む、発達中度の細塊、塊状の複合構造、細小孔を含む、ち密度2.3で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	65~	腐植を欠く橙(7.5 YR 6/5)のCL、半風化小中大半角礫に頗る富み、細小孔を含む、ち密度2.5で密。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	塊地容積重g	全 炭 素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~14	4.3	11.2	16.3	38.1	34.4	LiC	-	4.97	0.259	19.7
2	14~40	3.7	13.3	43.3	24.5	18.9	CL	105.8	2.20	-	-
3	40~65	1.4	14.0	24.4	31.4	30.2	LiC	120.8	-	-	-

層位	腐植 %	p H		置 換 酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩 基 飽 和 率 %	燐 吸 収 係 数	有効態燐酸 mg/100g
		H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソータ			
1	8.2	5.2	4.1	14.5	19.2	5.02	1.00	0.42	0.19	34	1.167	1r
2	3.8	5.2	4.3	13.8	13.0	1.34	0.33	0.42	0.15	17	1.570	3.3
3	-	5.5	4.2	18.5	17.9	1.50	0.16	0.33	0.21	12	1.500	1r

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては元沢木統、雄武西統があるが、元沢木統とは礫の出現位置および礫質が異り、雄武西統とは母材が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 火成岩(脆弱な流紋岩)

A-4 堆積様式 残積性

B 地 形 7~10%を有する波状性緩傾斜地。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm。

D 植生及び利用状況

山林原野が多いが、一部は畑地に利用され、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

酸性矯正、燐酸資材の施入及び苦土の施用が必要であろう。傾斜地が多いため栽培管理が充分になされない傾向があるが、草地では施肥、更新等に留意することが大切である。

F 分 布

紋別郡雄武町字幌内北の一部

調査及び記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
幌内西—幌内西	Ⅲ fsⅡ tdpne

② 土壌区別説明

幌 内 西 — 幌 内 西

示性分級式(畑)

土	表	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵				
壤	表	表	表	透	保	固	有	有	增	自	傾	侵		
生	効	土	表	透	湿	然	微	酸	物	地	傾	耐		
産	土	土	土	然	然	分	効	効	害	冠	斜	耐		
力	層	の	の	風	水	の	性	態	物	す	為	風		
可	の	の	の	水	潤	定	基	要	質	水	然	水		
能	厚	深	粘	乾	肥	塩	灰	土	障	危	傾	蝕		
性	厚	含	土	性	性	状	含	量	有	險	斜	蝕		
等	等	易	性	性	度	力	量	素	害	度	斜	蝕		
級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	性	度	斜	蝕		
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e			
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	3	2	2	1	1	2	1	Ⅲ	2	2	1
簡略分級式 Ⅲ fsⅡ tdpne														

A 土壌区の特徴

この土壌区は幌内西統に属する。表土の厚さは15cm内外でやや浅く、有効土層は65cm内外で中庸である。透水性良好で保水性もあり、過湿、過干のおそれは少ない。表層から流紋岩の細小礫を含み、下層程礫含量が多くなって最下層の礫層に達する。

保肥力、燐酸固定力ともに中庸であるが、土層の塩基状態は不良である。

表土は石灰、苦土の塩基が少く酸性を呈し、燐酸に欠乏している。下層はこの傾向が一層強い。傾斜地のため水蝕発生のおそれが多いが、この地域は牧草栽培或は草地として利用されているため、一般に新たな水蝕防止の必要性は少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は山林原野になつているが、一部は畑地に利用されて牧草、飼料作物等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地形並びに地理条件が悪いため充分管理を期し得ない点があると考えられるが、出来得る限り牧草に対する施肥を行い、また牧草地の更新を行うことが必要である。

D 分 布

北海道枝幸郡雄武町町幌内北の一部

記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

元 沢 木 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量9%内外、土性はLiCが主である。未風化中大半角、角礫に富む、色は7.5YRで彩度3、明度3の場合が多い。粒状構造で発達程度は中程度で細孔を含む。ち密度1.5前後で疎、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量5%内外、土性はLiCが主である。未風化、風化中大半角、角礫に富む、色は7.5YRで彩度8、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中程度で、細孔を含む。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)5.5前後、下層へは波状漸変する。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。未風化、風化細小半角、角礫に頗る富む、色は6YRで彩度8、明度5の場合が多い。

細塊状構造で発達程度は中程度で、細小孔を含む。ち密度2.2前後で中、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね45cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。未風化、風化小中半角、角礫に頗る富む。色は7.5YRで彩度8、明度5の場合が多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度2.3前後で中である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字栄岡 試坑No.2(19)

第1層	0～12cm	腐植に富む暗褐(7.5YR 3/3)のLiC、未風化中大半角、角礫に富む、発達中程度の粒状構造、細孔を含む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	12～22	腐植を含む明褐(7.5YR 5/8)のLiC、未風化、半風化中大半角、角礫に富む、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	22～45	腐植を欠く明赤褐(6YR 5/8)のLiC、未風化、半風化小中大半角、角礫に頗る富む、発達中程度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	45～	腐植を欠く明赤褐(6YR 5/8)のC、未風化、風化小中大半角、角礫に頗る富む、発達弱度の細塊状構造、ち密度2.3で中である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~12	4.4	12.3	15.8	35.3	36.6	Li C	97.8	5.64	0.27	21	9.3
2	12~22	4.9	13.9	10.5	36.8	38.8	Li C	-	3.11	0.17	18	5.1
3	22~45	5.7	14.1	13.3	32.2	39.4	Li C	-	-	-	-	-

層位	p H		置 換 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸収 係 数	有 効 態 酸 磷 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.3	4.6	4.1	25.0	8.03	2.00	0.50	0.22	43	1,272	2.5
2	5.5	4.3	12.5	20.6	3.68	1.00	0.61	0.27	27	1447	tr
3	5.3	4.3	20.0	19.9	2.01	0.33	0.43	0.35	15	1647	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては酸内西統、雄武西統があるが、雄武西統とは母材が異り、
 幌内西統とは礫層の出現位置および礫質が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 火成岩(堅質安山岩)

A-4 堆積様式 残積性

B 地 形 波状性傾斜地

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分は山林原野になつているが、一部は牧草が栽培され採草或は牧草地に利用されている。

E 農業上の留意事項

地形及び地理的条件が悪いため充分な管理は期し難いと思われるが、草地に対する施肥を充分に行うことが必要であり、草生の維持更新についても立地条件に合致した有効な方策を検討することが必要であろう。

F 分 布

紋別郡雄武町字栄岡の一部

調査及び記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
元沢木一元沢木	III t ds II gp fnie

(2) 土壌区別説明

元 沢 木 一 元 沢 木

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵												
生	効	土	表	表	地	透	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	目	傾	人	侵	耐	
産	土	土	土	土	土	然	潤	肥	定	塩	層	換	効	有	理	冠	水	地	自	傾	人	侵	耐	
力	の	層	の	の	の	風	水	潤	肥	定	塩	層	換	効	有	理	冠	水	地	自	傾	人	侵	耐
可	の	の	の	の	の	風	水	潤	肥	定	塩	層	換	効	有	理	冠	水	地	自	傾	人	侵	耐
能	の	の	の	の	の	風	水	潤	肥	定	塩	層	換	効	有	理	冠	水	地	自	傾	人	侵	耐
性	厚	深	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	力	態	豊	量	素	度	無	性	斜	向	斜	度	性
等	さ	さ	量	易	硬	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性
級	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e													
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ
簡略分級式	Ⅲ	t	d	s	Ⅱ	g	p	f	n	i	a	s	e											

A 土壤区の特徴

この土壤区は元沢木統に属する。表土の厚さは10～15cmで浅く、有効土層も50cm以内で浅い。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれは少い。ところにより地表から巨礫が出現する。保肥力大、燐酸固定力、土層の塩基状態とも中庸で自然肥沃度は中位である。表土は石灰、舌土、加里等の塩基はおおむね存在するが燐酸がやや少く、酸性を呈する。下層は塩基、燐酸ともに乏しい。波状傾斜のため水蝕発生のおそれが甚だしいが、酪農経営によつて主に牧草が栽培されるならば水蝕は相当防止される。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

一部は畑地に利用され牧草栽培或は放牧地になつている。他の大部分は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

地形、地理的条件から充分な栽培管理がやや困難な状況にあるが、草地に対する施肥は草生維持にとつて重要な事項である。また永年草地化しつつある草地の草生回復、更新の簡易な方法の検討が必要である。

D 分布

紋別郡雄武町字栄岡の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

沢 木 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外で腐植含量8%内外、土性はLiCが主である。半風化細小半角、角礫を含む、色は10YRで彩度2、明度4の場合が多い。粒状構造で発達程度は中程度で、細小孔を含む。ち密度20前後で中、pH(H2O)5.0前後、下層との境界は漸変である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量3%内外、土性はLiCが主である。半風化小中半角、角礫

に富む、色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中中で、細小孔を含む。ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。半風化、風化小中角礫を含む、色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む、ち密度20~22で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き、半風化、風化中大巨礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字沢木 試坑No3(19d)

第1層	0~10cm	腐植に富む黒褐(10YR4/2)のLiC、半風化細小半角礫を含む、発達中程度の粒状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第2層	10~30	腐植を含むにぶい黄褐(10YR5/4)のLiC、半風化、風化小中半角、角礫に富む、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	30~50	腐植を欠くにぶい黄褐(10YR5/4)のLiC、半風化、風化小中角礫を含む、発達弱度の細塊状構造、細孔を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	50~	半風化、風化大巨礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	2~10	4.6	10	13.2	15.0	34.0	37.8	LiC	4.86	0.246	20	8.2
2	10~30	7.4	25	17.2	13.1	34.6	35.1	LiC	1.80	0.102	18	3.1
3	30~50	5.4	10	20.0	16.2	33.1	30.7	LiC	-	-	-	-

層位	p H		置 換 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソ ー ダ			
1	5.1	4.3	17.8	24.5	6.02	1.25	0.42	0.23	32	1492	tr
2	5.4	4.3	32.5	24.8	2.26	0.25	0.39	0.20	12	1784	tr
3	5.6	4.3	37.0	23.9	1.50	0.16	0.21	0.25	8	1642	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統は元沢木統、電柱山統があるが、元沢木統とは岩質が異なり、電柱山統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 火成岩(扁平、堅質な安山岩)

A-4 堆積様式 残 積

B 地 形 標高120~160mの波状性傾斜地。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7mm。

D 植生及び利用状況

一部は牧草が栽培されているが、他の大部分は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれが多いが、牧草栽培の場合は水蝕防止はあまり問題にならない。地形、地理的条件が悪いため栽培管理が不十分となり勝ちであるから特に施肥を充分行うことが必要である。

F 分布

紋別郡雄武町字沢木の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和 44 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
沢木西-沢木西	Ⅲ fs Ⅱ t dp ne

② 土壌区別説明

沢 木 西 - 沢 木 西

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵													
生	効	土	(表	(表	透	保	固	土	質	有	微	酸	(有	(物	增	(地	(自	(傾	(人	(侵	耐	耐	
産	土	土	耘	土	地	然	然	層	換	"	"	効	能	害	理	冠	冠	斜	斜	為	水	風	
力	層	の	の	の	の	水	水	肥	の	石	苦	加	燃	害	的	水	水	の	の	傾	傾	蝕	蝕
可	の	の	の	の	の	水	水	肥	の	石	苦	加	燃	害	的	水	水	の	の	傾	傾	蝕	蝕
能	の	の	の	の	の	水	水	肥	の	石	苦	加	燃	害	的	水	水	の	の	傾	傾	蝕	蝕
性	厚	含	難	性	性	性	性	沃	力	力	態	專	量	"	"	素	度	無	性	性	斜	斜	蝕
等	厚	含	難	性	性	性	性	沃	力	力	態	專	量	"	"	素	度	無	性	性	斜	斜	蝕
級	厚	含	難	性	性	性	性	沃	力	力	態	專	量	"	"	素	度	無	性	性	斜	斜	蝕
	さ	さ	量	易	湿	度	否																
	t	d	g	p	w	f	n							i	a	s	e						
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	3	2	2	1	1	2	Ⅲ	1	2	3	Ⅱ	2	1	1	3	1	2	1	1
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	3	2	2	1	1	2	Ⅲ	1	2	3	Ⅱ	2	1	1	3	1	2	1	1
	簡	略	分	級	式																		
	Ⅲ	fs	Ⅱ	t	dp	ne																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は沢木西統に属する。表土の厚さは10~20cmで中庸、有効土層は50cm内外で中庸である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、燐酸固定力中で土層の塩基状態は不良である。表土は燐酸が少なく、石灰もやや少く酸性を呈し、下層は燐酸、石灰、苦土が何れも少ない。

地形は波状性傾斜を呈し、水蝕発生のおそれが多いが草地に利用する場合の水蝕は比較的少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は山林原野になつているが、一部は採草または放牧用草地に利用されている。

C 地力保全上の問題点

牧草栽培が多いため傾斜地ではあるが水蝕の発生はかなり抑えられ、水蝕に関して大なる問題は少ない。地形的にまた地理的に恵まれないため栽培管理に徹底を欠く場合が多いと考えられるので草地に対する施肥を怠らぬよう留意が必要である。

土壌は酸性を呈し、磷酸に欠乏しているので草地造成の際は石灰、磷肥を改良資材として施入することが必要である。

D 分 布

紋別郡雄武町字沢木の一部。

記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

雄 武 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量8%前後、土性はS i Cが主である。色は7.5 Y Rで彩度3、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は中～強度で、細孔を含む、ち密度1.5～1.8で疎、pH(H₂O) 5.5、下層との境界は波状漸変である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%前後、土性はL i Cが主である。風化小角礫を含み、色は7.5 Y Rで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は強度で、細小孔を含む。ち密度1.8～2.0で疎～中、pH(H₂O) 5.0前後、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はL i Cが主である。風化小中角礫を含み、色は7.5 Y Rで彩度8、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中～強度で、細小孔を含む。ち密度2.0～2.2で中、pH(H₂O) 5.0前後、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き、土性はC Lが主である。風化小中角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字雄武 試坑No.4(50)

第1層	0～12cm	腐植に富む褐色(7.5 Y R 4/3)のS i C、発達中程度の粒状構造、細孔を含む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第2層	12～30	腐植を含む明褐(7.5 Y R 5/6)のL i C、風化小角礫を含む、発達強度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O) 5.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	30～50	腐植を欠く明褐(7.5 Y R 5/8)のL i C、風化小中角礫を含む、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O) 5.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	50～	風化小中大角礫からなる礫、風化面は明褐(5 Y R 4/6)を呈する脆～砂岩礫。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~12	4.6	3.9	14.9	48.6	32.6	S i C	4.80	0.27	17.1	7.9
2	12~30	5.4	9.6	22.8	33.8	33.8	L i C	1.39	0.10	15.5	2.4
3	30~50	6.6	6.2	11.5	43.5	38.8	L i C	-	-	-	-
4	50~	6.4	7.9	33.9	36.1	22.1	C L	-	-	-	-

層位	p H		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			C a O	M g O	K ₂ O	ソーダ			
1	5.6	4.5	4.3	20.4	13.66	2.81	0.48	0.20	84	1088	1.7
2	5.2	3.8	94.5	39.2	4.01	3.51	0.44	0.19	20	1642	tr
3	5.2	4.0	59.5	32.6	6.03	2.41	0.43	0.18	27	1474	tr
4	5.0	3.7	121.5	-	-	-	-	-	-	1672	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては元沢木統、沢木統、音稲子府東統があるが、元沢木統とは堆積様式は類似するが母材が異り、また沢木統、音稲子府統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 三紀層砂岩

A-4 堆積様式 残積性

B 地 形 標高80m内外の波状性緩傾斜地。

C 気 候

農期間は一様に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分は主として牧草が栽培され、他の一部は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれが多いが、草地の場合はあまり問題とならない。一般に塩基、燐酸に乏しいから補給が必要であり、草地造成の場合は石灰、燐酸を改良資材として施用することが必要である。

F 分 布

紋別郡雄武町字雄武の一部

調査及び記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
雄武西一雄武西	II t d p f n s e

② 土壤区別説明

雄 武 西 一 雄 武 西

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	目	養	障	災	傾	侵														
生	効	土	表	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐
産	土	土	土	土	土	地	風	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	理	冠	す	然	斜	為	水
力	層	の	の	の	の	粘	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	量	質	障	の	危	傾	方	風
可	の	磽	土	着	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	量	量	素	度	害	障	の	危	傾	方
能	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	量	質	障	の	危	傾	方	風
性	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	量	質	障	の	危	傾	方	風
等	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	量	質	障	の	危	傾	方	風
級	厚	深	含	難	性	性	乾	性	性	度	沃	力	態	基	状	豊	含	量	質	障	の	危	傾	方	風
	さ	さ	量	易	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量
	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
	t	d	g	p		w		f		n										i	a	s		e	
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1	2	I	1	1
	II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	1	II	1	2	2	II	1	1	1	3	1				

～2、明度2～3。粒状構造で発達程度は弱～中度である。ち密度12～13で疎、pH(H₂O)4.8～5.0、下層との境界は波状漸変または平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量3～4%、土性はSiCが主である。風化、腐朽細小礫に富む、色は7.5～10YRで彩度2、明度5。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度19前後で中、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。半風化、風化細小中半角礫に頗る富む。色は10YR～2.5Yで彩度1～2、明度7～8。無構造、ち密度28～30で甚だ密、pH(H₂O)5.0～5.5、雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下35～50cm以下で、未風化、風化小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字音稲子府 試坑No.5(開2)

第1層	0～19cm	腐植に頗る富む黒褐(7.5YR 2/2)のSiC、発達中度の粒状構造、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)4.8、調査時の湿り湿、境界波状漸変または平坦明瞭。
第2層	19～35	腐植を含む灰黄褐(10YR 5/2)のSiCL、風化、腐朽細小礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第3層	35～50	腐植を欠く灰白(5Y 8/2)のCL、半風化、風化細小中半角礫に頗る富む、無構造、ち密度30で甚だ密、雲状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	50～	未風化、風化小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0～19	3.8	2.1	15.1	57.6	25.2	SiC	11.08	0.4	28	19.1
2	19～35	2.0	6.7	19.4	49.0	24.9	SiCL	2.03	0.12	17	3.5
3	35～50	1.8	5.7	27.2	43.4	23.7	CL	--	-	-	-

層位	pH		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	4.8	4.0	8.3	25.9	4.28	0.94			16.5	1645	
2	5.3	4.1	12.0	11.5	0.93	0.11			8.1	1574	
3	5.4	4.2	5.0	7.3	0.93	0.56			12.7	1609	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては幌内西統、音稲子府東統がある。幌内西統は酸化沈積物がなく、音稲子府東統は洪積世堆積で堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 固結火成岩(流紋岩)

B 植生および利用状況

耕地には牧草が主に栽培されており、他の大部分は原野になっている。

C 地力保全上の問題点

良好な草地を造成するには結局暗渠排水の設置、石灰、磷酸、苦土等の土壤改良資材の投入が重要事項となる。

D 分布

紋別郡雄武町字音稻子府の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

電 柱 山 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量6%前後、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は中度である。

ち密度1.3~1.8で疎、pH(H₂O)5.0~5.5、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量3%前後、土性はLiCが主である。色は7.5YRで4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱~中度で、細小孔を含む。ち密度2.1~2.2、pH(H₂O)5.0~5.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5のものが多い。塊状、細塊状の複合構造で発達程度は弱度であり、細小孔を含む。ち密度2.0~2.3で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き、土性はHCが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5のものが多い。板状構造を呈し、孔隙なし、ち密度2.4~2.7で密、pH(H₂O)は5.0~5.5である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字沢木 試坑No.6(52)

第1層	0~11cm	腐植に富む灰褐(7.5YR 4/2)のLiC、発達中度の粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	11~28	腐植を含むふい褐色(7.5YR 5/4)のLiC、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	28~50	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のLiC、発達弱度の塊状、細塊状の複合構造、細小孔を含む、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	50~	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/8)のHC、板状構造(発達弱度)、ち密度2.5で密、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~11	4.2	13.8	12.9	42.0	31.3	LiC	3.81	0.27	14	6.3
2	11~28	3.9	15.6	11.6	38.5	34.3	LiC	1.81	0.12	15	3.0
3	28~50	4.7	15.3	11.0	35.0	38.7	LiC	-	-	-	-
4	50~	6.4	6.3	11.7	31.7	50.3	HC	-	-	-	-

層位	p H		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.4	4.3	8.5	18.0	5.62	0.80	0.34	0.18	38	1028	1.7
2	5.3	4.1	15.0	18.4	4.02	0.40	0.20	0.14	25	1107	tr
3	5.5	4.2	22.8	11.6	3.01	0.20	0.12	0.25	18	1355	tr
4	5.3	4.0	38.3	21.2	2.41	0.20	0.20	0.26	14	1296	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては沢木西統、元沢木統、雄武統等があるが沢木西統、元沢木統とは母材は類似するが本統は脆弱な安山岩で、下層に赤色風化土壌の存在するところが存在する。雄武統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 安山岩

A-4 堆積様式 残積性

B 地 形 標高80~160mの波状性傾斜地。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm。

D 植生及び利用状況

畑地は主として牧草が栽培され、他の一部は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

処々に礫が地表から出現し、特に沢に面する斜面は礫地帯になっているから除礫を必要とするところがある。水蝕防止、酸性矯正、燐酸の増施が必要である。

F 分 布

紋別郡雄武町字沢木の一部。

調査及び記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
電柱山-電柱山	IIIpfItdgse

(2) 土壌区別説明

電 柱 山 - 電 柱 山

17~18で疎、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量3~4%、土性はLiCが主である。未風化、風化細小円礫を含む、色は7.5YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中程度で、細小孔を含む。ち密度18~21で疎~中、pH(H₂O)5.0~5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外、腐植含量は2%以下で、土性はLiCが主である。

未風化、風化細小円礫に富む、色は7.5YRで彩度6、明度5のものが多い。

細塊状構造で発達程度は弱度で細小孔に富む。ち密度20~21で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で腐植を欠き土性はLiCが主である。未風化、風化小円、半角礫に富む。色は7.5YRで彩度6、明度5のものに7.5YR彩度8、明度5の色調を混ざる場合が多い。塊状構造で発達程度は弱度で細孔を含む。雲状の酸化沈積物を含む、ち密度24~26で中~密である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字上雄武 試坑No.8(6)

第1層	0~12cm	腐植に富む灰褐(7.5YR4/2)のLiC、未風化、風化細小円礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	12~30	腐植を含むにぶい褐色(7.5YR5/4)のLiC、未風化、風化細小円礫を含む、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	30~50	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のLiC、未風化、風化細小円礫に富む、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度21で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	50~	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)に明褐(7.5YR5/8)を混ざるC、未風化、風化細小円、半角礫に富む、ち密度25で密、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~12	5.3	7.2	18.3	40.7	33.8	LiC	5.27	0.44	12	8.6
2	12~30	5.0	10.4	15.3	40.3	34.0	LiC	1.83	-	-	3.6
3	30~50	6.8	13.2	19.4	32.0	35.4	LiC	-	-	-	-

層位	pH		置 換 度 酸 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.6	4.8	1.3	27.9	16.32	3.01	0.58	0.14	71	1044	2.1
2	5.2	4.1	35.0	24.8	4.35	0.33	0.55	0.18	21	1619	tr
3	5.4	4.0	51.3	27.5	3.51	2.13	0.34	0.17	22	1900	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては雄武統、幌内西統、雄武西統があるが、雄武統とは堆積様式が異り、幌内西統、雄武西統とは母材が異なるのでそれぞれ本統と異なる。

A-3 母材 凝灰質礫岩

A-4 堆積様式 残積性

B 地形 標高120～180mの波状性傾斜地。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm。

D 植生及び利用状況

畑地は主として採草または放牧用の牧草が栽培され、その他は山林原野になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれがあり、水蝕防止対策が必要であるが、一旦草地化された場合は水蝕のおそれは少い。地形的に草地の維持管理に困難性をともなうが極力施肥に努めることが必要である。

F 分布

紋別郡雄武町字上雄武の大部分。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上雄武-上雄武	III t s II p f n e

② 土壌区別説明

上 雄 武 - 上 雄 武

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																									
生	効	土	(表	(表	(表	(透	(保	(固	(土	(置	(有	(微	(酸	(有	(物	(壇	(地	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐													
産	土	土	土	土	土	濕	然	層	分	換	"	"	"	効	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風													
力	層	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	的	害	の	傾	蝕													
可	の	礫	粘	乾	性	性	度	沃	力	力	態	基	状	豊	量	"	"	"	害	障	危	傾	蝕													
能	厚	深	含	難	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	基	状	豊	量	"	"	害	障	危	蝕													
性	厚	深	含	難	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	基	状	豊	量	"	"	害	障	危	蝕													
等	厚	深	含	難	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	基	状	豊	量	"	"	害	障	危	蝕													
級	さ	量	易	易	易	濕	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否													
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																									
	III	I	I	II	3	3	2	I	2	2	I	II	1	2	2	II	1	1	1	2	1	2	I	1	1	I	1	1	III	3	-	-	II	2	2	1
簡略分級式	III t s II p f n e																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は上雄武統に属する。作土の厚さは15cm以内で浅く、有効土層は1m内外でやや深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土は困難性をともなう。保水性中庸で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態も中庸で自然肥沃度は中位である。作土は有効態磷酸に乏しいが、他の養分はおおむね存在する。下層は石灰、苦土、磷酸ともに少く酸性を呈する。傾斜地のため水蝕発生のおそれがあるが、草地化されたところは比較的水蝕が弱い。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

畑地は主として牧草が栽培され、他は山林原野になっている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地のため水蝕発生のおそれがあり一般畑では水蝕防止が必要であるが、草地では比較的問題が少い。地形条件が悪いため草地の維持管理に困難性を伴うが、極力施肥に心がけ、施肥によつて牧草の生育を促進し早目に更新して土壤に有機物を富化することが必要である。

D 分 布

紋別郡雄武町字上雄武の大部分。

記載責任者 高 尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

音 稲 子 府 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量7～8%、土性はSiCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度4の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度2.2～2.4で中、pH(H₂O)5.5～6.0。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2～3%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中弱で、細小孔を含む。ち密度1.9～2.2で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中～弱度で細小孔を含む。ち密度2.2～2.4で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は15～20cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度6の場合が多い。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度2.4～2.6で中～密、pH(H₂O)5.3前後。下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表下おおむね70cm以下で腐植を欠き、土性はHCが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5の場合が多い。板状構造を呈し、細孔を含む、ち密度2.5～2.7で密、pH(H₂O)5.5前後。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字音稲子府統坑No.9(3)

第1層	0～13cm	腐植に富む灰褐(7.5YR4/2)のSiCL、発達弱度の粒状構造、ち密度2.3で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	13～35	腐植を含む明褐(7.5YR5/8)のLiC、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	35～52	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のLiC、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む。ち密度2.3で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	52～70	腐植を欠く明褐(7.5YR6/6)のLiC、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.5で密、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第5層	70～	腐植を欠く明褐(7.5YR5/8)のHC、板状構造、細孔を含む、ち密度2.6で密、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~13	3.6	7.0	14.1	57.7	19.2	SiCL	115.8	4.39	0.25	17	7.3
2	13~35	4.6	13.6	11.9	37.7	36.8	LiC	134.8	1.52	0.10	15	2.5
3	35~52	3.7	17.9	13.5	37.0	31.6	LiC	142.8	0.60	0.06	10	1.0
4	52~70	3.3	21.2	12.9	36.3	29.6	LiC	153.8	-	-	-	-
5	70~	4.2	19.7	9.8	23.2	47.3	HC	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.9	4.7	1.8	19.6	10.80	0.25	0.11	0.26	58	1.026	1.7
2	5.4	4.2	13.8	14.0	2.68	0.33	0.11	0.23	24	1.317	tr
3	5.4	4.2	14.8	11.7	2.01	0.16	0.12	0.19	21	1.129	tr
4	5.3	4.0	19.5	11.4	2.01	0.16	0.15	0.23	22	1.042	tr
5	5.4	3.9	28.0	18.0	2.01	1.17	0.22	0.29	20	1.033	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては沢木統、栄岡統、幌内東統があるが、幌内東統とは母材がやや異り、沢木統、栄岡統とは酸化沈積物の有無によりそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（流紋岩その他の風化物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高30~50mの緩波状を呈する台地。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用されて牧草、その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

草地に対する土壌改良資材の投入、家畜尿の還元撒布、混生割合に合致した施肥の実施と牧草の更新が草生維持増収のため必要である。

F 分 布 紋別郡雄武町の一部。

調査及び記載責任者

高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
音稲子府 - 音稲子府	Ⅲ t n Ⅱ p s e

② 土壤区別説明

音 稲 子 府 - 音 稲 子 府

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	有 効 土 の 含 量	表 土 の 粘 着 性	耕 転 土 の 難 易	土 地 の 乾 燥 性 度	自 然 肥 沃 力 度	保 固 層 の 塩 基 状 態	養 分 分 換 性 の 石 灰 含 量	障 害 物 質 の 有 無	災 害 物 質 の 危 険 性	傾 斜 の 危 険 度	侵 入 の 傾 斜 度	耐 風 蝕 性 度						
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e				
Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	-	-	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ
簡略分級式 Ⅲ t n Ⅱ p s e																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は音稲子府統に属する。作土の厚さは15cm以内で浅く、有効土層は1m内外で深い。表土の土性は細粒質で粘着性やや強く耕起碎土はやや困難である。保水性、透水性ともに中庸で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力、磷酸固定力ともに中庸で、土層の塩基状態もおおむね中庸である。作土は磷酸、加里、苦土含量が低く、下層は石灰、苦土、加里、磷酸ともに欠乏し、やや酸性を呈する。緩傾斜を有するため裸地では水蝕発生のおそれがあるが、草地では問題にならない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、主として牧草が栽培されている。他の一部は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

本土壤はいわゆる重粘地土と云われるものの中では比較的土壌条件のよいものであるが、排水を除いては重粘地土の土壌改良対策に準ずる。

草生の維持増収のため石灰、苦土等の塩基の補給と混生割合に合致した施肥の励行、永年草地化を避け適期に更新して行くこと等が必要である。特に草地造成によつて得られた良好な草生の維持が重要な事項となる。

D 分 布 紋別郡雄武町の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

幌 内 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は20cm内外で腐植含量8%前後、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度2、明度3の場合が多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度2.0～2.2で中、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量3%内外、土性はLiCが主である。色は5YRで彩度6、明度4の場合が多い。細塊状構造で発達程度は中度で細小孔を含む。ち密度2.0前後で中、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20～25cmで腐植含量2%以下、土性はLiC～HCである。色は5YRで彩度8、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度であり、細小孔を含む。ち密度2.2～2.4で中、pH(H₂O)5.0～5.5、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60～70cm以下で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は5YRで彩度8、明度5の場合が多い。板状構造を呈し、細小孔に富む。ち密度2.0～2.3で中である。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字幌内 試坑No.11(6)

第1層	0～23cm	腐植に富む黒褐(7.5YR3/2)のLiC、発達弱度の細粒状構造、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	23～42	腐植を含む明褐(5YR4/6)のLiC、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む。ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	42～65	腐植を欠く明赤褐(5YR5/8)のHC、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.3で中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	65～	腐植を欠く明赤褐(5YR5/8)のLiC、板状構造、細小孔に富む、ち密度2.2で中、調査時の湿り湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位cm	水分%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～23	4.2	16.4	12.3	40.9	30.4	LiC	89.8	5.15	0.29	18	8.5
2	23～42	5.0	11.3	12.4	31.4	44.9	LiC	102.8	2.07	-	-	3.4
3	42～65	5.8	13.8	22.6	14.2	49.4	HC	110.8	-	-	-	--

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.1	4.0	20.8	23.5	2.00	0.37	0.30	0.20	12	1,229	tr
2	5.3	4.2	20.5	20.6	1.50	0.25	0.25	0.25	10	1,761	tr
3	5.4	4.2	19.8	20.9	1.88	0.12	0.25	0.25	12	1,817	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては音稲子府東統、栄岡統、音稲子府統があるが、音稲子府東統、栄岡統は酸化沈積物が存在し湿性を呈するので本統と区分され、音稲子府統はロームを母材とするので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（褐色ローム的）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高20m内外の最も低い段丘面で海岸に接して分布する。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、主として牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

海岸線に沿って分布する平坦な地帯で地形に関する問題は少ないが、一般に石灰、磷酸が少ないので、土壌管理不十分なところでは石灰、磷酸資材の施用が必要であり、漸次深耕して行くことが必要である。

F 分 布 紋別郡雄武町の海岸線に沿って点在して分布する。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
幌内東-幌内東	III fn II t p

② 土壌区別説明

幌内東 - 幌内東

示性分級式(畑)

土	壤表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効土	表表表	透保湿	置	有微酸	增地	自傾入	侵耐
産	土	土土土	然	層	効	冠す	斜	水風
力	の	の風	肥肥塩	の性	態量	水り	然為	蝕
可	の層	の粘	沃状	の石苦加	燐	害の	の傾	蝕蝕
能	の磔	土着	力力態	灰土里	酸要	害障	傾方	蝕蝕
性	厚	難土の	度	豊含	素度	の害	斜	蝕蝕
等	深	性性	度	量	性	有無性	斜	蝕蝕
級	さ	量易	度	否	性	性	斜	蝕蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	Ⅳ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅱ 3 2 1	Ⅰ 1 2 1	Ⅲ 1 2 3	Ⅲ 3 3 2 3 2 2	Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 1	Ⅰ 1 - -	Ⅰ 1 1 1
	簡略分級式 Ⅲfn Ⅱtp							

A 土壤区の特徴

この土壤区は幌内東統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質であるが粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性中庸で透水性良好なため過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は不良で自然肥沃土はやや低い。表土は石灰、苦土磷酸含量が低く酸性を呈し、下層はこれらに欠乏し、酸性を呈する化学性の劣悪な土壤である。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

主として牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地形平坦なので侵蝕等に関する問題は少ない。表土、下層土とも石灰、苦土、磷酸がごく少いせき薄な土壤なので石灰、磷酸資材の投入が必要で、この際苦土もあわせて施用する必要がある。

管理不十分な草地在所々に見られるが、本土壤は農作業の面で比較的つくり易い土壤なので、改良資材の施用と施肥を充分行えば草生が回復され、また収量の高い草地となることが期待できる。

D 分布 紋別郡雄武町の海岸線に点在して分布。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

沢 木 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量5%前後、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度2、明度4のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.5~1.8で疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第2層は厚さ30cm内外で腐植含量1%内外、土性はCLが主である。色は1.0YRで彩度2、

明度6の場合が多い。塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔を含む。ち密度20~22で中、pH(H₂O)5.0~5.5。膜状の酸化沈積物を含む、下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下40~50cm以下で腐植含量2%以下、土性はHCが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5の場合が多い。脆弱な角柱状構造を呈し、細小孔を含む。ち密度25~27で密、pH(H₂O)5.0前後。雲状、斑状の酸化沈積物に富み、灰色脈を有す。

代表的断面形態

所在地 紋別郡雄武町字沢木 試坑No.12(53)

第1層	0~15cm	腐植を含む灰褐(7.5YR4/2)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第2層	15~45	腐植を欠く灰黄褐(10YR6/2)のCL、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度22で中、pH(H ₂ O)5.4、膜状酸化沈積物あり、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	45~	腐植を欠く明褐(7.5YR5/8)のHC、脆弱な角柱状構造、細小孔を含む、ち密度27で密、pH(H ₂ O)5.1、雲状、斑状の酸化沈積物に富み、灰色脈を有す。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績(未耕地)

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率%	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	2~15	2.0	19.4	18.1	43.5	19.0	CL	2.78	0.13	2.0	4.7
2	15~45	2.3	18.5	16.8	41.6	23.1	CL	0.59	0.04	1.6	1.0
3	45~	4.9	12.8	10.0	19.4	57.8	HC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度Y ₁	塩基置換容量me/100g	置換性塩基me/100g				塩基飽和度%	燐酸吸収係数	有効態燐酸mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	4.9	3.9	18.0	12.7	1.66	3.33	0.22	0.12	4.2	48.4	tr
2	5.4	4.1	16.3	11.6	1.66	0.66	0.15	0.16	2.2	68.2	tr
3	5.1	3.8	51.3	20.0	1.75	0.75	0.40	0.17	1.5	87.0	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては音稲子府統、音稲子府東統があるが、音稲子府統は酸化沈積物がなく、音稲子府東統は本統より湿性の程度が更に強いので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(流紋岩質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高40~70cmの緩波状を呈する台地。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7mm

D 植生及び利用状況

大部分は耕地に利用され、主として牧草が栽培され、他の一部は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

本土壤はやや湿性を呈するので軽度の排水が必要であろう。しかし一方降雨量の少ない年は早ばつの影きようをうけて発芽不良、初期生育の不良を招くことあり、水分的な問題がある。また一旦土壌が乾燥すると碎土困難となるので、これを緩和するために堆厩肥その他の有機物を施用する必要がある。

F 分 布 紋別郡雄武町字沢木、雄武の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 4 4 年 3 月 3 1 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
沢 木 - 沢 木	Ⅲ p f n Ⅱ t d w s

② 土壌区別説明

沢 木 - 沢 木

示性分級式(畑)

土	表	有表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	生	効	土	透	保	置	有	增	地	自	侵
産	土	土	土	濕	固	換	微	物	す	傾	耐
力	土	の	土	潤	層	性	酸	害	べ	然	風
可	層	の	粘	肥	の	石	効	理	り	斜	水
能	の	の	土	状	塩	灰	量	的	の	為	風
性	厚	深	着	沃	基	土	要	障	危	傾	蝕
等	深	含	硬	力	態	里	素	害	險	方	蝕
級	さ	量	さ	度	否	酸	度	有	度	斜	蝕
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
簡略分級式	Ⅲ p f n Ⅱ t d w s										

A 土壌区の特徴

この土壌区は沢木統に属する。表土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性強く、また乾燥すると強固に固結する性質が強く耕起碎土は困難である。保水性中庸、透水性やや悪く一時的過湿のおそれがある。しかし反面乾燥に失すると早

ばつになるおそれがある。

保肥力中、磷酸固定力小で土層の塩基状態は不良で自然肥沃度はやや低い。表土は石灰、磷酸含量がごく少く酸性を呈し、下層も石灰、加里、磷酸ともに乏しく酸性を呈するせき薄な土壤である。緩傾斜を呈するので水蝕のおそれは少いが、一部は水蝕のおそれがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、主として牧草が栽培され、他の一部は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

弱湿性を呈し軽度の暗渠排水の実施が望ましい。また反面は水分伝導が悪いため乾燥期にはしばしば早ばつの被害をうけ、乾燥すると堅硬に固結して碎土困難となるなど物理性が劣悪なので堆厩肥その他の有機物を施用して物理性を改善することが大切である。土壤改良不十分なところは石灰、磷酸、苦土を含む改良資材を施用して土壤改良を進める一方、施肥を充分行うことが草生増大のために必要である。

D 分 布 紋別郡雄武町字沢木、雄武の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

上 幌 内 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ11~15cmで腐植含量5%内外、土性はLiCが主である。色は7.5~10YRで彩度2~4、明度4~5、細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.4~1.5で疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量3~4%、土性はLiCが主である。腐朽細小礫を含む。色は10YRで彩度3~4、明度6、細塊状構造で発達程度は弱~中程度で、細小孔あり。ち密度1.7~1.8で疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。腐朽細小円礫を含む。色は10YRで彩度6、明度6~7、塊状構造で発達度は弱度で、細小孔を含む。ち密度2.0~2.4で中、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下40~50cm以下で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。腐朽細小円礫を含む~富む。色は10YRで彩度6、明度7のものが多。板状構造を呈し、ち密度2.7で密。雲状、斑状の酸化沈積物(マンガ斑と鉄銹斑)を含む。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字上雄武 試坑 No13 (4)

第1層	0~11cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/2)のLiC、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
		腐植を含むぶい黄橙(10YR6/3)のLiC、腐朽細円礫を含む、発

第 2 層	1 1 ~ 2 9	達中度の細塊状構造、細小孔あり、ち密度 1 8 で疎、pH (H ₂ O) 5. 調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第 3 層	2 9 ~ 4 0	腐植を欠く黄褐 (10 YR 5 / 6) の L i C、腐朽細小円礫を含む、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度 2 4 で中、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第 4 層	4 0 ~	腐植を欠く明黄褐 (10 YR 7 / 6) の L i C、腐朽細小円礫を含む、一部板状構造を呈し、均質連結状を呈す。ち密度 2 7 で密、調査時の湿り半乾、雲状、斑状の酸化沈積物 (鉄、マンガン) を含む。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 1 1	4.8	5.8	16.5	40.6	3 7.1	L i C	4.6 9	0.4 0	1 2	4.8
2	1 1 ~ 2 9	3.7	10.3	13.4	43.3	33.0	L i C	2.1 7	-	-	3.7

層位	p H		置 換 酸 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソ-ダ			
1	5.1	4.0	13.8	22.0	5.27	1.25	0.22	0.17	31	1,100	2.1
2	5.2	4.1	19.5	18.9	2.51	0.16	0.12	0.23	15	1,140	tr

A - 2 他 の 土 壤 統 と の 関 係

本統に隣接または類似する統としては、雄武統、上雄武統、沢木統などがあるが、雄武統とは堆積様式が異り、上雄武統は酸化沈積物がなく、また沢木統は母材がやや異なると思われるので夫々本統と区別される。

A - 3 母 材 非固結水成岩 (安山岩質)

A - 4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高 1 4 0 ~ 2 0 0 m の 波 状 性 緩 傾 斜 を 有 す る 台 地。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7 mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、牧草、馬鈴薯その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

斜面上部からの滲透水の影響をうけ、また下層が堅密なため弱湿性を呈するから軽度の暗渠排水が必要であろう。腐植に乏しく、固結し易い土壤なので有機物の施用が必要である。

F 分 布 紋別郡雄武町字上幌内の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和 4 4 年 3 月 3 1 日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上 幌 内 - 上 幌 内	Ⅲ t d p f Ⅱ g w n i s

② 土壤区別説明

上 幌 内 - 上 幌 内

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	透	保	湿	白	固	土	置	有	微	障	災	傾	侵																				
生	効	土	土	表	表	地	然	肥	肥	然	層	の	性	効	量	有	地	自	侵																				
産	土	土	の	土	土	水	水	潤	潤	定	塩	の	苦	加	要	害	冠	斜	耐																				
力	の	の	の	粘	土	水	水	乾	乾	基	基	石	灰	里	酸	質	す	然	水																				
可	層	の	の	土	土	乾	乾	沃	沃	状	状	土	土	酸	障	害	の	傾	風																				
能	の	の	の	着	土	乾	乾	沃	沃	力	力	土	土	酸	害	害	危	傾	蝕																				
性	厚	深	深	性	性	性	性	力	力	態	態	量	量	素	無	性	險	方	蝕																				
等	さ	さ	量	易	易	湿	湿	度	度	否	否	否	否	度	性	性	度	斜	性																				
級	t	d	g	p		w		f		n				i	a		s		e																				
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	I	Ⅲ	3	3	3	3	Ⅱ	3	2	2	Ⅲ	1	2	3	Ⅱ	2	1	2	2	2	1	2	Ⅱ	1	2	I	1	1	Ⅱ	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式	Ⅲ t d p f Ⅱ g w n i s																																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は上幌内統に属する。作土の厚さは15cm以内のもの多くやや浅く、有効土層は40～50cmでやや浅い。作土の土性細粒質で粘着性強く耕起碎土は困難である。保水性中庸であるが透水性やや悪く、また斜面上部からの滲透水の影響をうけて弱湿性を呈するところが多い。

保肥力大、磷酸固定力中で土層の塩基状態は不良である。作土は石灰、加里、燐肥がやや少く酸性を呈し、下層は酸性を呈し、各養分に乏しいせき薄な土壤である。緩傾斜を有し水蝕発生のおそれがややある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、牧草、馬鈴薯、えん麦その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

軽度の暗渠排水の実施が望ましい。腐植含量少くかつ各種養分に乏しく酸性を呈するから有機物の施用、石灰、燐肥の投入が必要となる。草地に対しては施肥を実施することが必要である。

D 分 布 紋別郡雄武町字上幌内の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

栄 岡 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量8%前後、土性はSiCが主である。色は10YR~2.5Yで彩度2~3、明度3~4。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.8内外で疎、pH(H₂O)5.0前後。糸状、雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%前後、土性はSiCが主である。色は10YR~2.5Yで彩度2~4、明度5~7。塊状構造で発達程度は弱度で、細小孔を含む。ち密度2.0~2.2で中、pH(H₂O)5.0前後。雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15~20cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。半風化細小円礫あり、色は2.5Y~10YRで彩度2~6、明度5~8。角柱状構造、細小孔あり。ち密度2.2~2.4で中、pH(H₂O)5.0前後。雲状の酸化沈積物を含み、灰色脈を有する。下層との境界は波状漸変。

第4層は地表下50cm以下で腐植を欠き、土性はSiCが主である。色は5Yで彩度1~2、明度7~8。均質連結状を呈し、孔隙なし。ち密度2.5~2.8で密、pH(H₂O)5.0前後。灰色脈を有す。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字栄岡 試坑No.14(18)

第1層	0~15cm	腐植に富む暗灰黄(2.5Y4/2)のSiC、発達弱度の粒状構造、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)4.8、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第2層	15~28	腐植を含む灰黄(2.5Y7/2)のSiC、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、雲状の酸化沈積物を含む、境界波状漸変。
第3層	28~47	腐植を欠く灰白(2.5Y8/2)のSiC、風化細小円礫を含む、角柱状構造、細孔含む、ち密度2.4で中、pH(H ₂ O)5.2、雲状、斑状の酸化沈積物を含み、灰色立脈を有す、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	47~	腐植を欠く灰白(5Y7/1)と明黄褐(10YR6/8)との混合のSiC、均質連結状、孔隙なし、ち密度2.8で密、pH(H ₂ O)5.1、青灰色立脈を有す、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	4 ~ 15	2.6	2.2	10.1	59.1	28.6	SiC	5.24	0.25	21	8.8
2	15 ~ 28	2.2	2.2	9.2	55.8	32.8	SiC	1.31	0.09	15	2.2
3	28 ~ 47	2.7	1.5	9.3	55.6	33.6	SiC	-	-	-	-
4	47 ~	3.5	1.3	7.7	46.7	44.3	LiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	4.8	4.0	21.5	19.0	13.4	0.16	0.13	0.22	9	80.2	7.0
2	5.1	4.1	25.0	12.2	1.00	0.20	0.07	0.14	11	67.7	tr
3	5.2	4.0	28.8	12.6	0.80	0.20	0.09	0.21	10	66.0	tr
4	5.1	3.9	39.8	16.5	2.01	0.40	0.18	0.20	16	82.9	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては音稲子府統、御西統、音稲子府東統があるが、音稲子府統は酸化沈積物がなく、御西統とは堆積様式が異り、また音稲子府東統は本統より更に湿性の程度が強いののでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(流紋岩質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高40~80mを有する台地で、わずかに緩波状傾斜を有す。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm

D 植生及び利用状況

大部耕地に利用され主として牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層は堅密な不透水層になっているため雨水の滲透流下が悪く、しばしば停滞水を生じて排水不良を早するから暗渠排水の実施と、更にこれにあわせて心土破砕を実施することが必要である。また土性改善のため砂客土、有機物の施用も必要である。

F 分布 紋別郡雄武町字栄岡、雄武、幌内の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
栄 岡 - 栄 岡	IIIp w f n II t d s

② 土壤区別説明

栄 岡 - 栄 岡

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 表 生	有 効 土 力 可 能 性 厚 等 級	表 土 の 層 の 厚 さ	耕 転 の 難 さ	表 土 の 粘 土 着 性	表 土 の 乾 硬 さ	土 地 の 水 潤 乾 湿	自 然 肥 沃 度	保 固 層 の 定 基 状 態	養 分 換 性 の 含 量	置 換 性 の 含 量	有 機 酸 の 量	障 害 物 質 の 害 無 性	災 害 的 障 害 の 危 険 度	傾 斜 の 傾 斜 度	侵 入 の 傾 斜 度	耐 風 蝕 性																	
	t	d	g	p		w		f		n		i		a		s		e															
III	II	II	I	III	3	3	3	3	III	2	2	3	III	3	3	2	2	1	3	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1	1
簡略分級式 IIIp w f n II t d s																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は栄岡統に属する。表土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は50~100cmで中庸である。表土の土性は細粒質で粘着性強く耕起碎土は困難である。保水性中庸であるが、下層の透水悪く停滞水を生じるため過湿のおそれが多い。この反面、晩春から初夏にかけて降雨量のごく少ない年には過干となつて発芽障害等作物に早ばつの被害をもたらすことがある。

保肥力、磷酸固定力ともに中庸で、土層の塩基状態は不良である。表土は磷酸は中庸のところもあるが、一般に少く、石灰、苦土、加里含量が少く、酸性を呈し、下層は各種養分に欠乏したせき薄な土壤である。緩傾斜を有し水蝕のおそれは少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、主として牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水を完全に実施するとともに、排水を更に効率化するため心土破碎を実施することが必要である。また砂客土、有機物の施用も必要である。土壤改良不充分なところでは石灰、苦土、磷酸に不足し酸性を呈するから、炭カル、磷肥を投入し、牧草に対しては充分施肥を行うことが大切で

ある。

分 布 紋別郡雄武町字栄岡、雄武、幌内の一部
記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

音 稻 子 府 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量20%内外、土性はHCが主である。色は10YRで彩度1明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.2~1.4で疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量3%内外、土性はHCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7のものが多い。均質連結状で孔隙なし、ち密度1.5~1.7で疎、pH(H₂O)5.0前後。斑状、管状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。色は10Yで彩度1明度7のものが多い。均質連結状で孔隙なし、ち密度1.5~1.6で疎、pH(H₂O)5.0~5.5、斑状、管状の酸化沈積物に富む。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下40~50cm以下で腐植を欠き、土性はSiCが主である。色は2.5GYで彩度1、明度7のものが多い。均質連結状で孔隙なし、ち密度1.8~2.2で疎~中、pH(H₂O)5.5前後。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字元稲子府 試坑No.15(17)

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のHC、発達弱度の粒状構造、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	15~30	腐植を含む灰黄(2.5Y7/2)のHC、均質連結状、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.1、斑状、管状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第3層	30~45	腐植を欠く灰白(10Y7/1)のSiC、均質連結状、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.3、斑状、管状の酸化沈積物に富む、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	45~	腐植を欠く明オーリーブ灰(2.5GY7/1)のSiC、均質連結状、孔隙なし、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿多湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 15	7.2	0.9	10.4	36.0	52.7	HC	12.69	0.87	15	20.3
2	15 ~ 30	3.5	1.8	5.4	46.8	46.0	HC	1.93	0.17	11	3.2
3	30 ~ 45	3.6	2.9	9.4	45.9	41.8	SiC	-	-	-	-
4	45 ~	3.7	4.4	11.7	42.4	41.5	LiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	ソータ			
1	5.2	4.3	10.5	40.3	8.46	1.57	0.51	0.31	31	1,546	tr
2	5.1	4.0	24.3	36.9	2.68	0.16	0.15	0.27	27	1,086	tr
3	5.3	3.9	23.8	14.4	4.35	0.67	0.12	0.38	38	933	tr
4	5.5	3.7	18.0	15.0	8.71	3.01	0.18	0.67	67	872	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては幌内東統、音稲子府統、栄岡統があるが、幌内東統、音稲子府統は酸化沈積物がなく乾湿が異り、栄岡統は腐植含量ごく高かつ下層にグライ層を有するため、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(流紋岩質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高30~70を有するほぼ平坦な台地

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され主として牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

組織的にかつ完全な暗渠排水の実施が必要である。排水の完全でないところが多いので、完全な実施が望ましい。石灰、磷酸の改良資材をさらに施用することが必要である。

F 分布 紋別郡雄武町の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
音稲子府東-音稲子府東	IIIpwf IItn

② 土壌区別説明

音 稲 子 府 東 - 音 稲 子 府 東

示性分級式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	産	効	土	土	土	地	然	層	置	有	物	増
力	可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	性	厚	深	含	難	着	乾	沃	状	豊	害	危
等	級	さ	さ	量	易	性	性	度	刀	量	無	度
		t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式 Ⅲpwf Ⅱtn												

A 土壌区の特徴

この土壌区は音稲子府東統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強いが腐植が多いので耕起碎土の困難性はやや緩和される。保水性やや大きく、透水性小さく、下層は常時停滞水を生じているため過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力大で土層の塩基状態は不良である。作土は磷酸含量少く、石灰もやや少く酸性を呈する。下層は石灰、苦土、磷酸に欠乏し酸性を呈する。地形はほぼ平坦で侵蝕のおそれはない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、主として牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

組織的明渠、暗渠排水の実施、石灰、磷酸資材の投入が必要である。

D 分 布

紋別郡雄武町の一部
 記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 日 付 昭和44年3月31日

中 雄 武 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外で腐植含量15%前後、土性はSiCが主である。色は10YRで彩度1明度3のものが多く、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~16で疎、pH(H₂O)6.5

前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量3%内外、土性はLiCが主である。風化細小半角礫を含む、色は2.5Yで彩度2、明度6のものが多し。塊状構造で発達程度は弱度で細小孔を含む。ち密度1.8前後で疎、pH(H₂O)5.5前後、雲状の酸化沈積物を含む、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。未風化、風化小中半角礫に頗る富む。塊状構造で発達程度は弱度で細小孔あり、雲状、斑状の酸化沈積物(鉄、マンガン)を含む。ち密度2.0～2.3で疎、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下50cm内外以下で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は5Y彩度1、明度7のものが多し。均質連結状で孔隙なく、ち密度2.1～2.5で中～密。雲状の酸化沈積物に富む。

代表的断面形態

所在地 紋別郡雄武町字中雄武 試坑617(54)

第1層	0～8cm	腐植に頗る富む、黒褐(10YR3/1)のSiC、発達弱度の粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	8～20	腐植を含む灰黄(2.5Y6/2)のLiC、風化細小半角礫を含む、発達弱度の塊状構造、一部柱状構造を呈す、細小孔を含む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.5、雲状、斑状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿境界波状明瞭。
第3層	20～50	腐植を欠く灰黄(2.5Y7/2)のC、未風化、半風化小中半角礫を含む、発達弱度の塊状構造、ち密度2.2で中、雲状、斑状の酸化沈積物を含む(鉄、マンガン)、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第4層	50～	腐植を欠く灰白(5Y7/1)のC、均質連結状、孔隙なし、ち密度2.3で中、調査時の湿り多湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～8	6.2	2.1	15.5	56.5	25.9	SiC	9.52	0.61	16	15.4
2	8～20	3.9	7.5	17.4	43.1	32.0	LiC	1.99	0.21	10	3.3

層位	pH		置換酸度Y ₁	塩基置換容量me/100g	置換性塩基me/100g				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソダ			
1	6.5	6.7	0.3	30.4	34.0 1953.6	1.50 30.2	0.22 10.4	0.23	118	1,088	5.1
2	5.5	4.4	6.5	20.0	8.0 225.7	0.40 8.1	0.13 6.1	0.21	43	900	1.12

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては雄武統、雄武西統、栄岡統があるが、雄武統、雄武西統は堆積様式が異り、栄岡統とは礫の有無によりそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（流紋岩礫を混入）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高80～100mの傾斜を有する台地。

C 気候 年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、主として牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

やや排水不良を呈するから軽度の排水を必要とする。

F 分布 紋別郡雄武町字中雄武の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中雄武一中雄武	IIIw IItp

② 土壌区別説明

中 雄 武 一 中 雄 武

示性分級式(畑)

土	壤	表	有	表	耕	表	表	表	土	自	養	置	有	障	災	傾	侵	
生	効	土	土	土	土	土	土	地	然	層	換	効	微	有	物	冠	自	耐
産	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	換	効	酸	害	害	す	傾	耐
力	の	の	の	の	の	の	の	潤	肥	定	塩	石	苦	質	的	水	為	風
可	層	の	の	の	の	の	潤	潤	肥	定	塩	石	苦	質	的	り	然	水
能	の	の	の	の	の	の	潤	潤	肥	定	塩	石	苦	質	的	り	然	風
性	厚	の	の	の	の	の	潤	潤	肥	定	塩	石	苦	質	的	り	然	風
等	深	含	難	土	着	硬	乾	乾	沃	状	豊	含	要	害	障	危	傾	風
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	力	力	量	量	素	有	害	險	傾	風
	t	d	g	p		w		f		n			i	a	s		e	
簡	略	分	級	式		III	w	II	t	p								

A 土壤区の特徴

この土壤区は中雄武統に属する。作土の厚さは15cm内外でやや浅く、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起砕土はやや困難である。保水性中庸で透水性やや悪く、滲透水の影響をうけるため過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態はやや良好である。

作土の磷酸、加里含量やや少く、下層は石灰、苦土、磷酸ともに少く、やや酸性を呈する。緩傾斜を有するが水蝕のおそれは少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、主として牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

斜面上部に排水明渠を設置し、軽度の暗渠排水を実施することが必要である。代表地点は石灰資材の充分施用されたところであるが、土壤改良が充分でないところは石灰、苦土、磷酸が少ないので石灰および磷酸資材の投入が必要であり、草地に対しては施肥を実施することが大切である。

D 分 布

紋別郡雄武町字中雄武の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

雄 武 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量5%内外、土性はLiCが主である。色は7.5~10YRで彩度2~3、明度4~5。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0~1.3で疎、pH(H₂O)5.5~6.0、下層との境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量3%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は中~強度で、細小孔を含む。ち密度1.5~1.7で疎 pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1~4、明度3~5。細塊状構造で発達程度は中~強度で、細小孔に富む。ち密度1.5~1.7で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭または波状漸変である。

第4層は地表下40~70cm以下で腐植含量2%以下、土性はSCLが主である。色は10YRで彩度4、明度5のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度1.4~1.6で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下60~70cmで未風化小中大小礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字雄武 試坑 618 (14d)

第1層 0~13cm	腐植に富む灰黄褐(10YR4/2)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
------------	---

第2層	13~28	腐植を含むにぶい黄褐(10YR5/4)のCL、発達強度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	28~40	腐植を欠くにぶい黄褐(10YR5/4)のCL、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	40~65	腐植を欠くにぶい黄褐(10YR5/4)のSCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.9、灰色斑を含む、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第5層	65~	未風化小中大円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~13	5.1	0.5	40.9	33.5	25.1	LiC	108.8	3.36	0.32	1.0	5.5
2	13~28	5.3	0.2	37.5	37.5	24.5	CL	96.8	1.77	0.29	6	2.9
3	28~40	5.3	0.6	40.6	35.9	22.9	CL	88.8	-	-	-	-
4	40~65	4.2	5.8	64.0	10.3	19.9	SCL	102.8	-	-	-	-

層位	pH		置 換 度 Y ₁	塩 置 容 mg/100g	基 換 量 mg/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ				CaO	MgO	K ₂ O	ソータ			
1	5.8	5.1	0.6	46.6	32.02	3.64	2.25	0.61	8.2	1.511	14.8	
2	6.1	5.3	0.8	43.1	34.16	4.77	1.87	0.61	9.6	1.640	9.7	
3	6.1	5.2	0.5	42.6	28.42	5.74	2.57	0.51	8.7	1.610	11.4	
4	5.9	4.7	3.8	30.4	19.84	4.77	1.21	0.57	8.6	1.436	5.0	

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては雄武統、下雄武統があるが、雄武統は腐植含量多く、礫層の出現位置が浅く、下雄武統は腐植含量多く細粒質であるためそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(安山岩質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 河川の流域に分布する低平地。

C 気 候

農期間は一 Generally 冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、えん麦、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本調査地域としては比較的良好な土壤に属する。有機物を施用して漸次耕土層を深めて行くことが望ましい。

D 分布 紋別郡雄武町字雄武、幌内、中幌内の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

雄 武 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量6%前後、土性はLiCが主である。

未風化小中円礫を含む、色は7.5~1.0YRで彩度2、明度3。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.8~2.0で疎~中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量3%前後、土性はCLが主である。未風化小中円礫を含む、色は7.5~1.0YRで彩度2~4、明度4、細塊状構造で発達程度は中度で、細小孔を含む。ち密度1.8~2.0で疎~中、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は地表下30~40cm以下で、未風化、風化小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字沢木 試坑No.22(10E)

第1層	0~15cm	腐植に富む、黒褐(7.5YR3/2)のLiC、未風化小中円礫を含む、発達弱度の粒状構造、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	15~35	腐植を含む褐色(7.5YR4/4)のCL、未風化小中大円礫を含む、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度1.9で中、pH(H ₂ O)5.9 調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭
第3層	35~	未風化小中大円礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位cm	水分%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	6.4	10.9	29.5	30.2	29.4	LiC	3.90	0.35	11	6.3
2	15~35	6.1	31.2	31.2	20.5	17.1	CL	1.73	0.18	10	2.8

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.5	4.6	6.3	32.9	18.46	3.51	0.38	0.17	68	1.532	2.1
2	5.9	4.6	5.5	29.7	18.08	3.01	0.16	0.21	72	1.591	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては雄武南統、下雄武統があるが、雄武南統は腐植含量少く礫層の出現位置が50cm以下であり、下雄武統は細粒質で湿性を呈するためそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(安山岩、流紋岩質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 河川の流域に分布する低平地。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量959.7mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、えん麦、馬鈴薯、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地上から巨大礫の存在するところがあり、かかるところは除礫を要する。漸次深耕して行くことが望ましい。一部過干のおそれがあるのでこのようなところは粘土質土壌の客入が必要である。

F 分布 紋別郡雄武町の各河川の流域に分布

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
雄 武 - 1	III d II t p f n i
雄 武 - 2	III d II t p(w) f n i
雄 武 - 3	III d II t p f n i

② 土壌区別説明

雄 武 - 1 - 雄 武 - 1

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
生	産	効	効	土	表	透	保	置	有	有	増	自	侵
力	土	土	土	土	土	然	固	換	微	物	地	傾	耐
可	の	の	の	の	の	潤	定	の	効	害	冠	然	水
能	層	層	層	粘	乾	肥	塩	石	量	質	す	斜	風
性	厚	難	土	土	乾	沃	基	灰	要	障	水	の	蝕
等	深	含	着	硬	性	力	状	豊	素	有	危	傾	蝕
級	さ	量	易	性	性	度	態	量	度	害	險	方	蝕
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e		
Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式 Ⅲd Ⅱtpwfni													

A 土壤区の特徴

この土壤区は雄武統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm以内で浅い。表土の土性は細粒質で粘着性やや強く耕起碎土はやや困難である。保水性中庸、透水性大で礫層浅く過干のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は中庸であり、自然肥沃度は中位である。作土は苦土が少く他の養分含量はほぼ中庸であり、下層は苦土、加里、磷酸が少くやや酸性を呈する。

地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、えん麦、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

礫層が浅く、かつ地表から礫の出現するところは過干のおそれが多く、また農耕に支障を来すから客土或いは除礫等を必要としよう。

牧草地には充分施肥をすることが大切である。

D 分 布 紋別郡雄武町各河川の流域に分布

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

下 雄 武 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量8%前後、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度2、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量3%前後、土性はSiCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7のものが多い。細粒状構造で発達程度は中程度で細小孔に富む。ち密度15～17で疎、pH(H₂O)5.0～5.5。斑状の酸化沈積物を含む。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20～40cmで腐植含量2%以下、土性はSiCが主である。色は2.5Yで彩度2明度7のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度であり、一部角柱状構造を呈する。細小孔に富む、ち密度15～17で疎、pH(H₂O)5.5前後。斑状、管状の酸化沈積物に富む。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下おおむね80cm以下で、腐植含量3～5%、土性はCが主である。色は7.5Yで彩度1、明度7のものが多い。均質連結状で細小孔を含む、ち密度12で疎。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 紋別郡雄武町字雄武 試坑No.27(12B)

第1層	0～22cm	腐植に富む、黒褐(10YR2/2)のLiC、発達弱度の粒状構造、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	22～37	腐植を含む灰黄(2.5Y7/2)のSiC、発達中程度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.3、斑状、雲状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	37～80	腐植を欠く灰黄(2.5Y7/2)のSiC、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.6、斑状、管状の酸化沈積物に富む、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	80～	腐植を含む灰色(7.5Y4/1)のC、均質連結状、細孔あり、ち密度12で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	6.4	1.7	19.1	41.2	38.0	LiC	5.39	0.44	12	8.7
2	22~37	6.4	1.9	13.1	45.2	39.8	SiC	1.73	0.19	9	2.8
3	37~80	6.3	0.4	10.0	52.1	37.5	SiC	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソータ			
1	5.4	4.3	10.0	46.3	20.09	6.28	0.86	0.81	60	1,596	7.7
2	5.3	4.3	9.8	39.9	19.26	7.53	0.37	0.89	70	1,701	4.3
3	5.6	4.5	4.0	37.9	19.10	9.04	0.32	0.87	77	1,636	6.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては雄武統、雄武南統、コイトイ統があるが、雄武、雄武南統は酸化沈積物なく、礫層を有す。またコイト等は母材、堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 雄武川の流域に分布する低平地。

C 気候

年平均気温 5.1°C、年間降水量 959.7mm。

D 植生及び利用状況

耕地には主として牧草が栽培され、その他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水を完備し、明渠を整備することが必要である。

F 分布 紋別郡雄武町字雄武の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
下雄武 - 下雄武	Mw It pfn

下 雄 武 - 下 雄 武

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	耕 起 土 の 難 易	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 燥 の 硬 さ	土 地 の 乾 燥 性	透 水 性	保 水 性	自 然 肥 力	保 肥 力	養 分 の 塩 基 状 態	置 換 性 石 灰 含 量	有 効 量 微 酸 性 磷 素	障 害 物 質 の 有 無	災 害 的 障 害 の 危 険 度	地 す べ り の 危 険 度	傾 斜 の 危 険 度	自 然 傾 斜 向	人 為 傾 斜 向	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性																
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e																							
						3	3	2		3	3	3		1	3	1		1	1	1	2		1	1		1	1		1	1		1	-	-	1	1	1	1
簡略分級式 w t p f n																																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は下雄武統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性強く耕起砕土はやや困難である。保水性大で透水性やや悪く地下水位がやや高いため過湿のおそれが多い。保肥力大、燐酸固定力大で土層の塩基状態は良好で、自然肥沃はやや高い。

作土は養分含量比較的高く、下層は燐酸が少い他は比較的養分は多い。地形は平坦で侵蝕のおそれは少く、特殊の障害性も存在しない。

B 植生および利用状況

耕地には主として牧草が栽培され、その他は原野になつている。

C 地力保全上の問題点

本調査地域においては養分比較的あり、地味良好な部に属する。土壤の肥沃度を充分發揮させるためには明渠を整備し、更に暗渠排水を完全に土地の乾燥をはかることが大切である。

D 分布 紋別郡雄武町字雄武の一部。

記載責任者 高尾欽弥 (北海道中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

御 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A - I 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量10%前後、土性はHCが主である。色は7.5~10YRで

彩度 3、明度 3。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度 20 前後で中、pH (H₂O) 5.5 ~ 6.0、雲状の酸化沈積物を含む。下層との境界は平坦明瞭である。

第 2 層は厚さ 20 ~ 30 cm で腐植含量 3 % 前後、土性は Li C が主である。色は 2.5 y で彩度 1 明度 5 のものが多い。塊状構造で発達程度は中度であり、一部角柱状構造を呈す。細小孔を含む。ち密度 16 ~ 17 で疎、斑状、管状の酸化沈積物を含む。pH (H₂O) 5.0 前後。下層との境界は波状漸変である。

第 3 層は厚さ 10 ~ 20 cm で腐植含量 2 % 以下、土性は Li C が主である。色は 2.5 Y で彩度 1、明度 5 のものが多い。均質連結状、ち密度 12 前後で疎、pH (H₂O) 5.0 前後。斑管状の酸化管状の酸化沈積物に富む、下層との境界は波状漸変。

第 4 層は地表下 60 ~ 70 cm 以下で腐植をかき、土性は C が主である。

色は 2.5 Gy で彩度 1、明度 5 のものが多い。均質連結状、ち密度 10 前後で疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡雄武町字沢木 試坑 No. 28 (12)

第 1 層	0~12cm	腐植に頗る富む暗褐 (7.5 y R 3/3) の H C、発達弱度の細塊状構造、ち密度 20 で中、pH (H ₂ O) 5.8、雲状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第 2 層	12~42	腐植を含む暗灰黄 (2.5 y 5/2) の Li C、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度 16 ~ 17 で疎、pH (H ₂ O) 5.0、斑状、管状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿り湿、境界波状漸度。
第 3 層	42~65	腐植を欠く黄灰 (2.5 Y 5/1) Li C、均質連結状、ち密度 12 で疎、pH (H ₂ O) 5.1、調査時の湿り湿、斑状、管状の酸化沈積物に富む、境界波状漸変。
第 4 層	65~	腐植を欠くオリブ灰 (2.5 Gy 5/1) の C、均質連結状、ち密度 10 で頗る疎、調査時の湿り多湿、60cm 内外で湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重 g	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0 ~ 12	7.0	1.3	17.5	33.6	47.6	H C	91.8	6.55	0.60	13	10.5
2	12 ~ 42	6.6	1.1	22.7	34.5	41.7	Li C	95.8	2.04	0.19	11	3.3
3	42 ~ 65	7.1	0.9	17.9	38.4	42.8	Li C	97.8				

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソーダ			
1	5.8	5.9	0.5	42.9	28.38	6.78	1.39	0.19	85	1691	2.2
2	5.0	4.2	11.3	38.7	19.84	10.55	0.32	0.66	80	1534	tr
3	5.1	4.1	13.5	37.6	15.74	9.71	0.28	0.65	70	1586	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては雄武統、雄武南統、下雄武統があるが、雄武、下雄武統はグライ層がなく、礫層が出現する。下雄武統は腐植含量少なく湿性の程度が強いののでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積 (河成堆積)

B 地形 小河川の流域に分布する低平地。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温は 5.1℃、年間降水量 959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、牧草、その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

河川改修も含めた組織的排水の設置が重要である。磷酸を増施することが望ましい。

F 分布 紋別郡雄武町字沢木、音稲子府の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
御 西 - 御 西	III w II t p f n

② 土壌区別説明

御 西 - 御 西

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	表 土 の 礫 含 量	表 土 の 粘 着 性	耕 起 の 難 易	表 土 の 乾 湿 の 硬 さ	土 の 透 水 性	土 の 保 水 性	自 然 肥 沃 度	保 固 力	養 分 の 塩 基 状 態	置 換 性	石 灰 含 量	有 効 態 量	微 量 元 素	障 害 性	有 害 物 質 の 有 無	災 害 性	増 冠 す べ り の 危 険 度	傾 斜 の 方 向	自 然 傾 斜	人 為 傾 斜	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e														
簡略分級式 w t p f n																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は御西統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性やや強く耕起砕土はやや困難である。保水性中庸、透水性やや悪く地下水位が高いため過湿のおそれが多い。

保肥力、磷酸固定力ともに大で、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土は磷酸含量少ないが、他の養分は比較的多い。下層は磷酸が少く、加里、石灰がやや不足と思われる、やや酸性を呈する。

地形は平坦で侵蝕のおそれは少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

大部分耕地に利用され、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

川底を下げる等河川改修を含めた組織的な排水の実施が重要であり、養分的に磷肥の投入が望ましい。

D 分 布 紋別郡雄武町字沢木 音稲子府の一部。

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

元 稲 子 府 統

(1) 土壌統の特徴

A 土壌統の特徴

A - 1 断面の特徴

第1層は15cm内外で腐植含量10~15%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2~3、無構造を呈し、ち密度6~8で頗る疎、pH(H₂O) 5.0~5.5、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、

明度4のものが多く、均質連結状、ち密度1.1~1.3で疎、pH(H₂O) 5.0~5.5、下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下おおむね40cm以下で腐植を欠き土性はCが主である。色は2.5GYで彩度1、明度5のものが多く、均質連結状、細小孔を含む、ち密度1.5~1.7で疎、斑状の酸化沈積物を含む。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字雄武 試坑No.29(12C)

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む黒褐(10YR3/1)のLiC、無構造、ち密度7で頗る疎、pH(H ₂ O) 5.3、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	15~40	腐植に富む褐灰(10YR4/1)のLiC、均質連結状、細小孔を含む、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O) 5.3、調査時の湿り多湿、境界波状漸変。
第3層	40~	腐植を欠くオリブ灰(2.5GY5/1)のC、均質連結状、細小孔を含む、ち密度1.6で疎、斑状、管状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り多湿。地表下40~50cmで湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0 ~ 15	5.0	2.5	26.3	38.0	33.2	LiC	8.55	0.60	14	14.0
2	15 ~ 40	3.5	2.6	26.2	39.9	31.3	LiC	3.61	0.30	12	6.0

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g				塩 基 飽 和 度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソ-ダ			
1	5.3	4.4	7.6	29.0	4.82	5.22	0.26	0.88	38	1302	tr
2	5.3	4.2	11.3	23.5	3.68	4.02	0.14	0.68	36	1127	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、御西統、下雄武統などがあるが、本統とは腐植含量が異りかつ湧水面と湿性の程度が異なるので区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形 小河川の流域に分布する低平地。

C 気 候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温5.1℃、年間降水量957.7mm。

D 植生及び利用状況

一部耕地に利用され、牧草が栽培されており、他は原野のまま放置されている。

E 農業上の留意事項

良好な草地または畑地にするためには小河川の川底を下げて組織的排水の完備が必要であり、更に石灰、燐肥等の改良資材を充分実施することが必要事項となるが、本土壤区は面積狭少で土地利用度が悪いためこれの改良に対する経済効果が問題である。本土壤は放牧地などに利用し、更に経済効果の高い地帯への改良が好ましい。

F 分布 紋別郡雄武町字雄武、音稲子府の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
元稲子府 - 元稲子府	IV w II t p f n

② 土壌区別説明

元 稲 子 府 - 元 稲 子 府

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 の 厚 さ 等 級	表 土 の 層 の 厚 さ	有 効 土 層 の 厚 さ	表 土 の 粘 着 性	耕 土 の 粘 着 性	表 土 の 風 乾 性	土 地 の 風 乾 性	透 水 性	保 水 性	自 然 沃 度	保 肥 力	土 層 の 塩 基 状 態	養 分 の 含 量	置 換 性	有 効 量	微 酸 性	障 害 物 質 の 害 無	災 害 物 質 の 害 無	地 冠 水 の 危 険 度	傾 斜 の 危 険 度	傾 斜 の 危 険 度	人 為 傾 斜	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性										
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																							
IV				3	2	2	IV	2	3	4		1	2	2		2	1	2	3	1	2		1	1		1	1		1	1	1	1	1	1
簡略分級式 IV w II t p f n																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は元稲子府統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質、粘着性中庸で耕起碎土はやや困難である。保水性大、透水性中庸であるが地下水位高いため過湿のおそれが多い。

保肥力大、燐酸固定力中庸で土層の塩基状態は中庸である。作土は燐酸、石灰、加里が少くやや酸性を呈し、下層はこれらの養分が更に少ない。

地形は平坦で侵蝕のおそれはなく、特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

耕地には牧草が栽培され、他は原野として放置されている。

C 地力保全上の問題点

良好な耕地にするためには河川の川底を下げるなど河川改修を含めた組織的排水が必要となり、更に石灰、磷酸資材を施用して土壤改良を図ることが必要事項となるが、本土壌の面積少かつ土地利用度が悪いため、経済効果の面で難点があると考えられる。したがって簡易草地の造成等により放牧地として利用する方が得策であろう。

D 分 布 紋別郡雄武町字雄武、音稲子府の一部。

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

中 幌 内 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A - 1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%、土性はCLが主である。未風化、風化細小半角礫に富む。色は10YRで彩度2、明度3のものが多く。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15~16で疎、pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。未風化、風化細小半角礫に頗る富む。色は2.5Yで彩度2、明度4のものが多く。細塊状構造で発達程度は中程度で、細小孔を含む。ち密度17~18で疎、pH(H₂O)5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は地表下40~50cm以下で、未風化、風化細小中半角、角礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)紋別郡雄武町字中幌内 試坑No.30(13)

第1層	0~19cm	腐植に富む黒褐(10YR3/2)のCL、未風化、風化細小半角礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	19~45	腐植を欠く暗灰黄(2.5Y4/2)のCL、未風化、風化細小中半角礫に頗る富む、発達中程度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	45~	未風化、風化細小中半角、角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 19	2.5	17.6	20.8	37.8	23.8	CL	3.99	0.37	11	6.7
2	19 ~ 45	2.6	23.8	24.1	32.2	19.9	CL	0.24	0.024	10	0.4

層位	pH		置換酸度 Y ₁	陽基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				陽基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O	ソ-ダ			
1	6.1	5.5	0.1	22.9	15.07	0.83	0.27	0.23	71	784	45.1
2	5.1	4.1	13.0	18.1	5.02	0.25	0.28	0.17	31	883	19.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては雄武南統、雄武統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩 (安山岩主)

A-4 堆積様式 水積 (扇状堆土)

B 地形 標高40~80mの緩傾斜地。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7mm。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、えん麦、馬鈴薯、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

本調査地域内で比較的地味良好の部に属し、特に問題はない。

一部に沢からの流水により水蝕が発生すると思われるので、かかるところは牧草地とするなど防止対策が望ましい。

F 分布 紋別郡雄武町字中幌内の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中幌内 - 中幌内	d t g p f n i s

② 土壌区別説明

中 幌 内 - 中 幌 内

示性分級式(畑)

土	表	表	表	表	表	土	透	保	自	養	置	有	微	障	災	傾	傾	侵	耐	耐
壤	効	効	効	効	効	地	水	水	然	固	分	効	効	酸	有	地	地	人	耐	耐
生	土	土	土	土	土	土	潤	潤	肥	定	層	層	量	害	冠	す	傾	傾	水	風
産	の	の	の	の	の	の	性	性	力	力	の	の	要	物	の	の	傾	傾	蝕	蝕
力	厚	の	の	の	の	の	度	度	沃	力	塩	苦	素	質	害	危	方	方	度	度
可	さ	深	粘	風	乾	乾	性	性	力	力	基	加	度	性	性	險	向	向	性	性
能	さ	含	着	乾	性	性	硬	硬	力	力	基	加	度	性	性	險	向	向	性	性
性	さ	量	性	性	性	性	さ	さ	度	度	状	里	度	無	度	度	度	度	度	度
等	さ	易	性	性	性	性	さ	さ	度	度	否	土	度	無	度	度	度	度	度	度
級																				
	t	d	g	p		w			f		n			l		a		s		e
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ
簡略分級式	ⅢdⅡtgpfnie																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は中幌内統に属する。作土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm以内で浅い。作土の土性は中粒質で粘着性中庸で礫に富む場合があり耕起砕土はやや困難である。保水性中庸、透水性良好で一般に過湿、過干のおそれは少ないが、一部は過干のおそれがある。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は中庸である。作土は養分がおおむね存在するが、心土は石炭、苦土、加里がやや少く、酸性を呈する。緩傾斜を有し沢からの流水によつて水餌をうけるところがある。特殊の障害性は存在しない。

B 植生および利用状況

大部分は耕地に利用され、えん麦、馬鈴薯、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

本調査地域内では地味良の部に属し、特に問題点はない。一部沢からの流水によつて水餌をうけるところがあるから、このようなところは緑作帯の設置、牧草作付その他の防止策が必要であろう。

D 分布 紋別郡雄武町字中幌内の一部。

記載責任者 高尾欽弥(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

コ イ ト イ 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm内外で腐植含量20%以上、色は7.5YRで彩度1、明度2、のものが多。ヨシからなる分解良好な低位泥炭である。ち密度10以下ですこぶる疎pH(H₂O)4.5~5.0、下層との境界は平坦明瞭である。(第2層との間に層厚約2cm内外の褐色の火山灰層をはさむ)

第2層は厚さ30～40cmで腐植含量50%以上、色は7.5 YRで彩度4、明度3のものが多い。ヨシを主材とする分解良好な低位泥炭である。ち密度1.0以下ですこぶる疎、pH (H₂O) 4.5～5.0、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外、色は7.5 YRで彩度1、明度1のものが多い。分解良好なヨシ、ハンノキを主材とする低位泥炭で、わずかに火山灰を混入している。ち密度1.0以下ですこぶる疎、pH (H₂O) 5.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植含量5～10%、土性はCが主である。色はNで明度3のものが多い。均質連結状で孔隙なく、ち密度1.0前後で疎、下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表下おおむね80cmで腐植含量2%以下、土性はCが主である。色はNで明度8のものが多い。ち密度1.0内外で疎。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡雄武町字音稲子府 試坑No. 33 (LP)

第1層	0～10cm	黒色 (7.5 YR 2/1) の分解やや良好な泥炭、ち密度1.0以下ですこぶる疎、pH (H ₂ O) 4.7、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。(第2層との間に層厚2cm内外の褐色の火山灰層をはさむ)
第2層	10～50	暗褐 (7.5 YR 3/4) の分解良好な泥炭、ち密度1.0以下で疎、pH (H ₂ O) 4.6、調査時の湿り潤、境界波状漸変。
第3層	50～70	黒色 (7.5 YR 1/1) の分解甚だ良好な泥炭、火山灰をわずかに混入、ち密度1.0以下ですこぶる疎、pH (H ₂ O) 4.9、調査時の湿り潤、境界波状明瞭。
第4層	70～80	腐植に富む暗灰 (N 3/0) のC、均質連結状、ち密度1.0内外で疎、調査時の湿り潤、境界波状漸変。
第5層	80～	腐植を欠く灰白 (N 8/0) のC、均質連結状、ち密度1.0内外で疎、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	粒径組成%				土性	現地容積重 g	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～12	9.2	0.4	19.2	35.7	44.7	Li C	16.8	26.56	2.17	12	45.8
2	12～50	10.4	0.2	8.5	27.7	63.6	H C	13.8	33.87	2.39	14	58.4
3	50～70	8.6	0.8	10.7	42.1	46.4	H C	12.8	-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				塩基飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O	ソータ			
1	4.7	4.0	6.6	67.7	10.55	4.02	1.40	1.77	26	1000	2.0
2	4.6	3.5	21.2	99.0	11.05	5.52	0.41	1.35	18	1560	8.9
3	4.9	4.1	14.6	74.5	7.53	3.51	0.04	0.72	15	1070	1.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては音稲子府東、下雄武統などがあるが、いずれも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 ヨシ、ハンノキ

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）

B 地形 河川流域の低平地または台地上の平坦部。

C 気候

農期間は一般に冷涼である。年平均気温 5.1℃、年間降水量 959.7 mm。

D 植生及び利用状況

大部分原野として放置されている。

E 農業上の留意事項

この泥炭地を耕地化するためには組織的な排水、酸性矯正改良資材の施用などが基本となるが、面積狭少でかつ点在して分布するため単独に改良対策を構ずる場合は経済効果が問題となる。他の排水不良地との関連で改良することが望ましい。

F 分布 紋別郡雄武町字幌内、音稲子の一部。

調査及び記載責任者 高尾欽弥（北海道中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
コイトイ - コイトイ	III w f II t n

② 土壌区別説明

コ イ ト イ - コ イ ト イ

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	表 土 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 湿 性	土 地 の 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	自 然 沃 土	保 肥 力	固 定 基 質	養 分 の 含 量	置 換 性	有 機 質 の 含 量	微 酸 性	障 害 物 質 の 含 量	災 害 物 質 の 含 量	傾 斜 の 危 険 度	傾 斜 の 危 険 度	傾 斜 の 危 険 度	傾 斜 の 危 険 度	侵 蝕 の 危 険 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性
	t	d	g	p	w				f		n						i	a	s			e	
III																							
簡略分級式 III w f II t n																							

A 土壌区の特徴

この土壌区はコイトイ統に属する。表土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質であるが、粘着性弱く耕起碎土は容易である。保水性大、透水性良好であるが地下水位高く過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。

表土、心土とも酸性強く、磷酸ならびに石灰、苦土、加里等の塩基に乏しい。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。特殊の障害性も存在しない。

B 植生および利用状況

大部分原野のまま放置されている。

C 地力保全上の問題点

耕地化する場合は完全な明渠、暗渠排水と酸性矯正、磷酸、苦土の施用等の土壌改良が必要であるが、本土壌区単独で改良することは経済効果の面で問題がある。隣接する排水不良と合せた一連の土地改良、土壌改良の実施が望ましい。

D 分布 紋別郡雄武町字幌内、音稲子府の一部

記載責任者 高尾欽弥 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

3. 保全対策地区区分および説明

1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴および対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
幌内西	幌内西 - 幌内西 元沢木 - 元沢木 沢木西 - 沢木西 上雄武 - 上雄武 電柱山 - 電柱山	37.1	傾斜地が多く水蝕のおそれが多い酸性を呈し、石灰、苦土、磷酸が少い、 地表から礫の出現するところあり 地理的条件が悪い 礫層が浅い	保全耕作 酸性矯正、磷酸資材の投入、苦土の施用、一部除礫
雄武西	雄武西 - 雄武西	1.3	緩傾斜地で一部水蝕をうけ易い 酸性を呈する 磷酸が少い	保全耕作 酸性矯正 磷酸資材の施用
音稲子府西	音稲子府西 - 音稲子府西	3.6	過湿のおそれが多い 酸性を呈する 磷酸が少い 礫層が浅い	明渠、暗渠排水の実施 酸性矯正 磷酸資材の施用

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
音稲子府	音稲子府 - 音稲子府 幌内東 - 幌内東	510	磷酸、苦土が少い、一部酸性を呈す	磷酸資材の施用、苦土の施用、一部酸性矯正
沢木	沢木 - 沢木 上幌内 - 上幌内	245	過湿のおそれがある 腐植が少い 酸性を呈する 磷酸、加里が少い 粘着性強く固結しやすい。	軽度の暗渠排水、明渠排水、心土破碎、酸性矯正 磷酸資材の施用、加里の施用、砂客土
栄岡	栄岡 - 栄岡 音稲子府東 - 音稲子府東 中雄武 - 中雄武	1180	過湿のおそれが多い、石灰、苦土、磷酸が少い、重粘で粘着性強く固結しやすい	明渠、暗渠排水 心土破碎 石灰、磷酸資材の投入、砂客土
雄武	雄武南 - 雄武南 雄武 - 1 " - 2 " - 3 中幌内 - 中幌内	321	一部過干のおそれがある。 地表から礫の出現するところあり	一部客土 一部除礫 漸次深耕して有機物を施用
下雄武	下雄武 - 下雄武 御西 - 御西 元稲子府 - 元稲子府	91	過湿のおそれが多い 磷酸がやや少い	明渠排水、一部暗渠排水 磷酸の増施
コイトイ	コイトイ - コイトイ	33	過湿のおそれが多い、酸性を呈する。石灰、磷酸、苦土、加里が少い。容積重が小さい	明渠、暗渠排水 酸性矯正、石灰、磷酸資材の投入、苦土加里の増施、容土

2) 保全対策地区別説明

< 幌内西保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	371	幌内西、元沢木、沢木西、上雄武、電柱山

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

山地または丘陵地に隣接する波状性傾斜地で水蝕発生のおそれがある。一般に礫が浅く、局部的に地表から巨大礫が出現し農耕上の支障になつているところがある。地形が悪くまた地理条件が悪いため利用度はやや低い。

土壌は保肥力、磷酸固定力中～やや大であり、一般に酸性を呈し、石灰、苦土等の塩基が少く、かつ磷酸に乏しい性状を有し、下層は表土より一層養分含量が少くせき薄な土壌である。しかし最近実施された草地造成地は十分な改良資材の投入と施肥により養分含量がかなり高められている。

② 営農の方向、その他

本地域は気象条件が悪く、また地形、地理的条件もやや悪いため酪農経営が行われている。今後この経営を更に推進発展することが必要であろう。

この場合本保全対策地区を公共草地または大規模草地として利用することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	幌内西 - 幌内西 元沢木 - 元沢木 沢木西 - 沢木西 上雄武 - 上雄武 電柱山 - 電柱山 371ha	草地の造成拡大	機械開こん方式、レキト-ザ- 工事費の助成	
酸性矯正	同上	炭カル		
磷酸資材の投入 苦土の施用	同上	焙成磷肥の施用 苦土入肥料の施用	改良資材費の助成	
一部除礫	元沢木 - 元沢木 沢木西 - 沢木西 電柱山 - 電柱山 118ha	人力または機械除礫或は放牧地化		

< 雄武西保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 村 名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	13	雄武西 - 雄武西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地形は波状性傾斜を呈し水蝕が発生し易い。本土壌は脆く風化しやすい三紀層砂岩を母材とし、保肥力中庸で、磷酸固定力も中庸である。表土は酸性を呈し、磷酸が少なく、下層も石灰、磷酸ともに少く酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

前保全対策地区と同様酪農経営を更に発展することが当面の目途であろうが、このためには草地の造成ならびに拡大を更に進めることが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
保全耕作	雄武西 - 雄武西 13ha	牧草地の造成拡大	指導 新規の草地造成	
酸性矯正	同上	炭カルの施用	炭カル	
磷酸資材の施用	同上	特に草地造成時は 熔成磷肥、トーマス 磷肥の投入		

< 音 稲 子 府 西 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	36	音稲子府西 - 音稲子府西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

緩傾斜を呈する台地で、比較的礫層が浅くやや密に堆積しているため透水悪く排水不良を呈する。本区は台地の中でも比較的高い位置に湿原状を呈して分布する。

土壌は腐植含量頗る多く、酸性を呈し、石灰、磷酸、苦土、加里の養分含量が少い。

② 営農の方向、その他

前区同様酪農経営が行われ、更に経営規模を発展させることが当面の目途である。このため草地の造成拡大が必要であるが本区は他区に比して排水の実施が大きな問題になる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材および機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	音稲子府西 - 音稲子府西 36ha	明渠、暗渠排水の実施	素焼土管 } 工事費 トレンチャ - } の助成	
酸性矯正	同上	炭カルの施用	炭カル 1,000 Kg / 10 a	
磷酸資材の施用	同上	改良資材として磷酸質肥料の投入	熔燐 100 ~ 150 Kg / 10 a	

< 音稲子府保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	510	音稲子府 - 音稲子府、幌内東 - 幌内東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題

① 特徴と問題点

本区は海岸沿いに分布する台地上の平坦地と、これよりやや標高の高い緩波状地で、土層は褐色を呈し過湿のおそれは少い。海岸沿いに分布する幌内東統は火山性土が混入していると思われ磷酸固定力が一般に高い。一方台地上の緩波状地に分布する音稲子府統は緩傾斜のため水蝕発生のおそれがある。

本土壌はいわゆる重粘地土壌に属するものの中で乾燥型のものである。土壌改良実施していないところは酸性を呈し、石灰、苦土、磷酸に乏しくせき薄であり、一般に粘性強く、一旦乾燥すると強堅に固結して碎土し難い特徴を有する。

② 営農の方向、その他

本地帯は気象の条件から酪農経営が推進されている。今後これを更に発展せしめる必要があるが、このためには良好な草地の造成とその後の維持管理を充分に行うことが重要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
磷酸、苦土の施用	音稲子府 - 音稲子府 幌内東 - 幌内東 510 ha	磷酸、苦土資材の投入	熔成燐肥その他の磷酸、苦土資材 熔燐の場合 150~200 Kg/10 a	
酸性矯正	同 上	炭カルルの施用	炭カル Kg/10 a	

< 沢木保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	245	沢木 - 沢木、上幌内 - 上幌内

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

台地上の波状を呈する緩傾斜地で、わずかに水蝕発生のおそれがある。本区はいわゆる重粘地土壤と呼ばれているもので下層堅密で透水がやや悪く、一時的に停滞水を生じて排水不良を呈することがあり、またかんばつ期には水分の上昇が不十分で作物の発芽期に被害を被ることがある。一般に酸性を呈し、石灰、苦土、加里が少く、また磷酸固定力はあまり強くないが、磷酸に欠乏している場合が多い。有機物に乏しく、粘着性強く、一旦乾燥すると堅硬に固結しきわめて碎土し難い性状を有する。

② 営農の方向、その他

前区同様酪農経営を一層推進発展せしめることが大きな目標とされている。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	沢木 - 沢木 上幌内 - 上幌内 245 ha	軽度の明渠、暗渠排水	素焼土管、トレンチャ -、工事費の助成	
心土破碎	同 上	地表下 50~60 cm まで心土破碎	パンプレイカー 工事費の助成	
砂客土	同 上	比較的近距离にある海砂の客入	工事費の助成	
酸性矯正	同 上	炭カルルの投入	炭カル Kg/10 a	
磷酸、加里の施入	同 上	磷酸資材の投入 加里の増施	熔成燐肥 150 ~ 200 Kg/10 a	

< 栄岡保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	1180	栄岡 - 栄岡、音稲子府東 - 音稲子府東、中雄武 - 中雄武

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本区は台地上の凹地形や泥炭地の周辺に分布し、下層は強粘な重植土や、ち密な不透水層になつていて、滲透水および停滞水のため排水不良を呈している。

前区と同様石灰、苦土、加里が少く、また磷酸にも欠乏している。

表層は腐植の多いところもあるが、重粘な土壌で粘着性、固結性が強く農作業に不便を来す。

② 営農の方向、その他

前区と同様酪農経営の推進が行われている。このような排水不良地では十分な土地の排水を図らねば良好な草生は期待出来ないと考えられるので隣接する土壌条件とにらみ合せて土地改良を実施することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
排水	栄 岡 - 栄 岡 音稲子府東 - 音稲子府東 中雄武 - 中雄武 1180 ha	明渠、暗渠排水	素焼土管 工事費の助成	
心土破砕	栄 岡 - 栄 岡 911 ha	地表下 50~60cm まで心土破砕	パンブレーカー 工事費の助成	
石灰、磷酸の投入	栄 岡 - 栄 岡 音稲子府東 - 音稲子府東 1173 ha	土壌改良資材として炭カル、磷酸の投入	炭カル 1,000 Kg/10a 熔成磷酸 150~200 Kg/10a	
砂容土	栄 岡 - 栄 岡 音稲子府東 - 音稲子府東 中雄武 - 中雄武 1180 ha	比較的近距離にある海砂の容入	工事費の助成	

＜ 雄 武 保 全 対 策 地 区 ＞

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	321	雄武南 - 雄武南、雄武 - 1、雄武 - 2、雄武 - 3、 中幌内 - 中幌内

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

雄武川、幌内川その他の小河川の流域に分布する沖積土で、土性は植壤土または植土であるが粘着性が強い傾向を有する。一般に礫層が浅いが、礫層の出現位置は一定でなく極く浅いところが処々に存在し、かかるところは過干のおそれがある。また地表から巨大礫が出現して農耕上の支障になっているところも存在する。

養分含量は本調査地区内では比較的多い方であり、土壌としては良好の部に属する。

② 営農の方向、その他

前区同様酪農経営が推進されている。比較的地味のよい方なので集約的牧草の栽培によつて収量を一層増大するとともに隣接する傾斜地や未利用台地の利用拡大が課題と思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
客 土	雄 武 - 1 " - 2 " - 3	埴質土壌の客入	工事費の助成	
一部除礫	雄武南 - 雄武南 雄武 - 1、2、3 中幌内 - 中幌内 321 ha	局所的に地表から巨大礫の出現するところは除礫または放牧地に利用		
有機物施用と深耕	同 上	保水力を高め地力を更に高めるため有機物を施用しながら漸次深耕する	指 導	

< 下雄武保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	91	下雄武 - 下雄武、御西 - 御西、元稲子 - 元稲子

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

雄武川その他小河川の流域に分布する。地下水位が高いか、または台地からの滲透水のため排水不良を呈し、一部は甚しい低湿地になつているところもある。

土壌はやや酸性を呈し、磷酸が少く、未分解有機物が多い。

② 営農の方向、その他

前区同様酪農経営が推進されている。本区の一部は草地或は畑地に利用されているが、利用度の低いところおよび未利用地は排水が問題となつている。このようなところは面積狭少であり、幕大な費用と労力をかけて草地を造成した場合の経済効果が問題になるであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地および対象面積	実施方法	対策資材および機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	下雄武 - 下雄武 御西 - 御西 元稲子府 - 元稲子府 91ha	河川改修による 川底の低下、明 渠、暗渠排水の 実施	工事費の助成 国費導入	
燐肥の投入	同上	燐肥および石灰 の投入	熔成燐肥 150 ~ 200 Kg / 10 a 炭カル Kg / 10 a	

< コイトイ保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡雄武町	33	コイトイ - コイトイ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

河川の流域および台地上の凹部に分布する低位泥炭である。過湿のため殆んどが開発されずに放置されている。

泥炭地共通の特徴である過湿、強酸性、石灰、苦土、磷酸、加里および微量元素の各種養分に乏しい性状を有し、また客積重が極く軽く鉍質物に不足している。

② 営農の方向、その他

前区同様酪農経営が推進されている。本区に隣接する排水良地とあわせた計画的排水工事を実施しなければ充分牧草収量を揚げることは出来ないが、排水を必要としない他の保全対策区の効率的利用を図るか、本区の土地改良、土壤改良を実施して草地を造成するかは経済効果の面と立地条件を検討しなければならぬであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地および対象面積	実施方法	対策資材および機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	コイトイ-コイトイ 33 ha	明渠、暗渠排水 の実施	素焼土管 工事費の助成	
酸性矯正 磷肥の投入	同上	炭カル、熔成磷 肥の投入	炭カル $Kg/10 a$ 熔成磷肥 $150 Kg/10 a$ 内外	
客土	同上	埴質土壤の客入	工事費の助成	
施肥合理化	同上	苦土、加里の増 施	指導	

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ	理 学									
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	現地C 容積重 g
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	ミルト %	粘土 %		
幌 内 西	幌 内 西 (2)	1	1	0 ~ 14		4.3	8.2	11.2	16.3	27.5	38.1	34.4	LiC	
			2	14 ~ 40		3.7	3.8	13.3	43.3	56.6	24.5	18.9	CL	105.8
			3	40 ~ 65		4.4		14.0	24.4	38.4	31.4	30.2	LiC	120.8
	元 沢 木 (19)	2	1	0 ~ 12		4.4	9.3	12.3	15.8	28.1	35.3	36.6	LiC	97.8
			2	12 ~ 22		4.9	5.1	13.9	10.5	24.4	36.8	38.8	LiC	
			3	22 ~ 45		5.7		14.1	13.3	27.4	33.2	39.4	LiC	
	沢 木 西 (19d)	3	1	0 ~ 10		4.6	8.0	13.2	15.0	28.2	34.0	37.8	LiC	
			2	10 ~ 30		7.4	2.9	17.2	13.1	30.3	34.6	35.1	LiC	
			3	30 ~ 50		5.4		20.0	16.2	36.2	33.1	30.7	LiC	
雄 武 西	雄 武 西 (50)	4	1	0 ~ 12		4.6	7.9	3.9	14.9	18.8	48.6	32.6	SiC	
			2	12 ~ 30		5.4	2.4	9.6	22.8	32.4	33.8	33.8	LiC	
			3	30 ~ 50		6.6		6.2	11.5	17.7	43.5	38.8	LiC	
			4	50 ~		6.4		7.9	33.9	41.8	36.1	22.1	CL	
音 稻 子 府 西	音 稻 子 府 西 (開2)	5	1	0 ~ 19		3.8	19.1	2.1	15.1	17.0	57.6	25.2	SiC	
			2	19 ~ 35		2.0	3.5	6.7	19.4	42.5	49.0	24.9	SiCL	
			3	35 ~ 50		1.8	-	5.7	27.2	51.5	43.4	23.7	CL	
幌 電 柱 山	電 柱 (52)	6	1	0 ~ 11		4.2	6.3	13.8	12.9	26.7	42.0	31.3	LiC	85.8
			2	11 ~ 28		3.9	3.0	15.6	11.6	27.2	38.5	34.3	LiC	121.8
			3	28 ~ 50		4.7		15.3	11.0	26.3	35.0	38.7	LiC	128.8
			4	50 ~		6.4		6.3	11.7	18.0	31.7	50.3	HC	
	山	2E	1	0 ~ 11		5.6	8.8	7.2	13.0	20.2	40.8	39.0	LiC	
			2	11 ~ 30		6.7	2.9	7.7	17.4	25.1	43.4	31.5	LiC	
3			30 ~ 55		8.7		17.6	30.4	48.0	20.5	31.5	LiC		

性				化 学 性												
における理学性100cc容中				pH		置換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩容 基 置 換 量 me /100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	Kcℓ		T-C %	T-N %	TC/ TN		CaO	MgO	K ₂ O			
				5.2	4.1	14.5	4.76	0.26	18	19.2	140.8	20.1	19.8	27	1167	tr
39	45.0	16	61.0	5.2	4.3	13.8	2.21	-	-	13.0	37.6	6.6	19.8	10	1570	3.3
13	39.0	48	87.0	5.5	4.2	18.5	-	-	-	17.9	42.1	3.2	15.5	8	1500	tr
37	29.0	34	63.0	5.3	4.6	4.1	5.40	0.27	20	25.0	225.2	40.3	23.5	32	1272	2.5
				5.5	4.3	125	2.96	0.17	17	20.6	103.2	20.1	28.7	18	1447	tr
				5.3	4.3	20.0	-	-	-	19.93	56.4	6.6	20.2	10	1646	tr
				5.1	4.3	17.8	4.64	0.25	19	24.5	168.8	25.2	19.8	24	1492	tr
				5.4	4.3	32.5	1.68	0.54	3	24.8	63.4	5.0	18.3	9	1784	tr
				5.6	4.3	37.0	-	-	-	23.9	42.1	3.2	9.9	6	1642	tr
				5.6	4.5	4.3	4.58	0.27	17	20.4	384.0	56.6	22.6	67	1088	1.7
				5.2	3.8	94.5	1.39	0.10	14	39.2	112.4	70.7	20.7	10	1642	tr
				5.2	4.0	59.5	-	-	-	32.6	169.1	48.5	20.3	18	1474	tr
				5.0	3.7	121.5	-	-	-	54.5	225.4	242.8	16.0	15	1672	
				4.5	3.8	22.5	11.08	0.40	28	28.8	3.4	1.7		11.9		
				4.6	3.8	13.8	2.03	0.12	17	12.2	0.8	1.3		6.3		
				4.7	3.8	11.9	-	-	-	11.2	0.7	1.0		6.3		
32	44.0	24	68.0	5.4	4.3	8.5	3.66	0.27	14	18.0	157.6	16.1	16.0	31	1028	1.7
43	37.0	20	57.0	5.3	4.1	15.0	1.74	0.12	15	18.4	112.7	8.1	9.4	22	1107	tr
45	37.0	18	55.0	5.5	4.2	22.8	-	-	-	19.6	84.4	4.0	5.6	15	1355	tr
				5.3	4.0	38.3	-	-	-	21.2	67.6	4.0	9.4	11	1296	tr
				5.3	4.1	16.0	5.11	0.32	16	27.4	200.5	63.2	32.9	26	1349	4.2
				5.4	4.1	37.3	1.68	-	-	27.1	131.5	33.6	22.6	17	1792	tr
				5.5	4.0	70.8	-	-	-	34.6	126.7	33.6	21.2	13	1993	tr

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学									
					濃 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	現地容積重
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	ミルト %	粘土 %		
内 西	電柱山 (24)	7	1	0 ~ 11		4.4	11.3	6.5	18.0	24.5	39.8	35.7	Li C	
			2	11 ~ 30		4.2	2.0	8.0	18.1	26.1	36.6	37.3	Li C	
			3	30 ~		6.7		4.5	18.0	22.5	29.9	47.6	H C	
	上雄武 (6)	8	1	0 ~ 12		5.3	8.6	7.2	18.3	25.5	40.7	33.8	Li C	83.8
			2	12 ~ 30		5.0	3.0	10.4	15.3	25.7	40.3	34.0	Li C	
			3	30 ~ 50		6.8		13.2	19.4	32.6	32.0	35.4	Li C	
音 稲 子 府	音稲子府 (3)	9	1	0 ~ 13		3.6	7.3	9.0	14.1	23.1	57.7	19.2	Si Cl	115.8
			2	13 ~ 35		4.6	2.5	13.6	11.9	25.5	37.7	36.8	Li C	134.8
			3	35 ~ 52		3.7	1.0	17.9	13.5	31.4	37.0	31.6	Li C	142.8
			4	52 ~ 70		3.3		21.2	12.9	34.1	36.3	29.6	Li C	153.8
			5	70 ~		4.2		19.7	9.8	29.5	23.2	47.3	H C	
	畹内東 (開6)	11	1	0 ~ 12		4.2	8.5	16.4	12.3	28.7	40.9	30.4	Li C	89.8
			2	12 ~ 30		5.0	3.4	11.3	12.4	23.7	31.4	44.9	Li C	102.8
			3	30 ~ 50		5.8		13.8	22.6	36.4	14.2	49.4	H C	110.8

性				化 学 性												
おける 理学性 100cc 容中				P H		置換酸度 Y ₁	有 機 物			虚容基置換量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %	H ₂ O	Kcℓ		T-C %	T-N %	TC/TN		CaO	MgO	K ₂ O			
																5.6
				5.3	3.9	39.0	1.16	0.07	17	20.8	67.6	8.1	12.7	12	1187	tr
				5.2	3.9	69.8	-	-	-	26.7	50.5	12.1	10.4	7	1216	tr
32	39.0	29	68.0	5.6	4.8	1.3	4.99	0.44	11	27.9	457.6	60.6	27.3	58	1044	2.1
				5.2	4.1	35.0	1.74	-	-	24.8	122.0	6.6	25.9	18	1619	tr
				5.4	4.0	51.3	-	-	-	27.5	98.4	42.9	16.0	13	1900	tr
44	37.0	19	56.0	5.9	4.7	1.3	4.24	0.25	17	19.6	302.9	5.0	5.2	55	1026	1.7
47	33.0	20	53.0	5.4	4.2	13.8	1.45	0.10	15	14.0	75.1	6.6	5.2	19	1317	tr
49	34.0	17	51.0	5.4	4.2	14.8	0.58	0.07	8	11.7	56.4	3.2	5.6	17	1129	tr
53	35.0	12	47.0	5.3	4.0	19.5	-	-	-	11.4	56.4	3.2	7.1	18	1042	tr
				5.4	3.9	28.0	-	-	-	18.0	56.4	23.6	10.4	11	1033	tr
35	37.0	28	65.0	5.1	4.0	20.8	4.93	0.29	17	23.5	56.1	7.4	14.1	9	1229	tr
36	41.0	23	64.0	5.3	4.2	20.5	1.97	-	-	20.6	42.1	5.0	11.8	7	1761	tr
38	44.0	18	62.0	5.4	4.2	19.8	-	-	-	20.9	52.7	2.4	17.9	9	1817	tr

保全 対策 区	土 壤 区 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学											
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地 容積重 g		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	ミ ル ト %	粘 土 %				
沢 木	沢 木 (53)		1	0 ~ 15		2.0	4.7	19.4	18.1	37.5	43.5	19.0	CL	126.8		
			2	15 ~ 45		2.3	1.0	18.5	16.8	35.3	41.6	23.1	CL			
			3	45 ~		4.9		12.8	10.0	22.8	19.4	57.8	HC			
	木	上 幌 内 (4)		1	0 ~ 11		4.8	7.7	5.8	16.5	22.3	40.6	37.1	LiC	93.8	
				2	11 ~ 29		3.7	3.6	10.3	13.4	23.7	43.3	33.0	LiC	113.8	
	栄 岡	栄 岡 (18)		1	0 ~ 15		2.6	8.8	2.2	10.1	12.3	59.1	28.6	SiC		
2				15 ~ 28		2.2	2.2	2.2	9.2	11.4	55.8	32.8	SiC			
3				28 ~ 47		2.7		1.5	9.3	10.8	55.6	33.6	SiC			
4				47 ~		3.5		1.3	7.7	9.0	46.7	44.3	SiC			
音 稲 子 府 東 (17B)		音 稲 子 (17)		1	0 ~ 15		7.2	20.3	0.9	10.4	11.3	36.0	52.7	HC	63.8	
				2	15 ~ 30		3.5	3.2	1.8	5.4	7.2	46.8	46.0	HC	98.8	
				3	30 ~ 45		3.6		2.9	9.4	12.3	45.9	41.8	SiC	108.8	
				4	45 ~		3.7		4.4	11.7	16.1	42.4	41.5	LiC	130.8	
		音 稲 子 府 東 (17B)			1	0 ~ 20		6.1	26.3	0.4	19.7	20.1	43.4	36.5	LiC	30.8
					2	20 ~ 35		5.1	9.8	1.0	5.9	6.9	34.1	59.0	HC	74.8
					3	35 ~ 60		4.9		0.6	3.3	3.9	26.6	69.5	HC	112.8
					4	60 ~		4.1		1.0	5.2	6.2	33.1	60.7	HC	48.0

性				化 学 性												
における理学性100cc容中				P H		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩容基置換量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %	H ₂ O	Kcℓ		T-C %	T-N %	TC/ TN		CaO	MgO	K ₂ O			
46	37.0	17	54.0	4.9	3.9	18.0	2.73	0.13	21	12.7	46.5	67.0	10.4	13	484	tr
				5.4	4.1	16.3	0.58	0.04	15	11.6	46.5	13.3	7.1	15	682	tr
				5.1	3.8	51.3	-	-	-	20.0	49.0	15.1	18.8	9	870	tr
35	41.0	24	65.0	5.1	4.0	13.8	4.47	0.40	11	22.0	147.8	25.2	10.4	24	1100	2.1
41	40.0	19	59.0	5.2	4.1	19.5	2.09	-	-	18.9	70.4	3.2	5.6	13	1140	tr
				4.8	4.0	21.5	5.11	0.25	20	19.0	37.6	3.2	6.1	7	802	7.0
				5.1	4.1	25.0	1.28	0.09	14	12.2	28.0	4.0	3.3	8	677	tr
				5.2	4.0	28.8	-	-	-	12.6	22.4	4.0	4.2	6	660	tr
				5.1	3.9	39.8	-	-	-	16.5	56.4	8.1	8.5	12	829	tr
26	59.0	15	74.0	5.2	4.3	10.5	11.78	0.87	14	40.3	237.2	31.6	24.0	21	1546	tr
35	51.0	14	65.0	5.1	4.0	24.3	1.86	0.17	11	36.9	75.1	3.2	7.1	7	1086	tr
38	51.0	11	62.0	5.3	3.9	23.8	-	-	-	14.4	12.2	13.5	5.6	31	933	tr
46	43.0	11	54.0	5.5	3.7	18.0	-	-	-	15.0	244.2	60.6	8.5	58	872	tr
15	65.0	20	85.0	4.7	4.1	24.0	15.26	1.05	15	38.8	95.6	4.0	17.0	9	1832	6.0
28	52.0	20	72.0	4.8	4.0	45.0	5.69	0.37	15	35.9	24.1	5.6	5.2	3	1432	tr
39	51.0	10	61.0	4.8	4.0	54.5	-	-	-	27.7	10.4	5.0	8.5	1	1530	tr
45	131.0	7	138.0	5.3	3.8	41.5	-	-	-	19.6	78.8	20.1	7.5	14	1051	tr

保全 対策区	土 壌 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地 に 容 積 重 g	
						水 分 %	膠 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	ミ ルト %	粘 土 %			
栄 岡	中 雄 武	17 (54)	1	0 ~ 8		6.2	15.4	2.1	15.5	17.6	56.5	25.9	SiC		
			2	8 ~ 17		3.9	3.3	7.5	17.4	24.9	43.1	32.0	LiC		
雄	雄	18 (11d)	1	0 ~ 13		5.1	5.5	0.5	40.9	41.4	33.5	25.1	LiC	108.8	
			2	13 ~ 28		5.3	2.9	0.2	37.5	37.7	37.5	24.8	CL	96.8	
			3	28 ~ 40		5.3		0.6	40.6	41.2	35.9	22.9	CL	88.8	
			4	40 ~ 60		4.2		5.8	64.0	69.8	10.3	19.9	SCL	102.8	
	武	19 (11)	1	0 ~ 20		2.9	2.9	29.8	32.9	62.7	27.5	9.8	L	119.8	
			2	20 ~ 50		4.1	3.6	1.2	41.2	42.4	40.2	17.4	CL	97.8	
	南	20 (11B)	1	0 ~ 18		4.2	3.5	6.5	31.9	38.4	41.8	19.8	CL	122.8	
			2	18 ~ 50		4.4	3.6	3.7	29.8	33.5	44.1	22.4	CL	110.8	
			3	50 ~		4.4		1.4	36.0	37.4	45.0	17.6	CL	105.8	
	武	雄	21 (11E)	1	0 ~ 16		4.0	4.6	3.5	46.7	50.2	25.4	24.4	CL	
				2	16 ~ 35		4.2	2.9	12.2	61.7	73.9	14.5	11.6	SL	
		雄	22 (10E)	1	0 ~ 15		6.4	6.3	10.9	29.5	40.4	30.2	29.4	LiC	103.8
2				15 ~ 35		6.1	2.8	31.2	31.2	62.4	20.5	17.1	CL	98.8	
武		23 (9B)	1	0 ~ 15		5.4	7.3	3.5	33.1	36.6	26.1	37.3	LiC	106.8	
			2	15 ~ 30		4.8	5.5	3.9	29.5	33.4	30.1	36.5	LiC	92.8	
	3		30 ~ 48		6.3		9.8	74.0	83.8	13.3	2.9	SL	75.8		

性				化 学 性												
おける理学性100 cc容中				P H		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩基置換量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
固相容重 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 cc	H ₂ O	Kcℓ		T-C %	T-N %	TC /TN		CaO	MgO	K ₂ O			
				6.5	6.7	0.3	8.94	0.61	15	30.4	953.6	30.2	10.4	112	1088	5.1
				5.5	4.4	6.5	1.91	0.21	9	20.0	225.7	8.1	6.1	41	900	11.2
41	40.0	19	59.0	5.8	5.1	0.9	3.19	0.31	10	46.6	879.8	73.3	105.9	67	1511	14.8
36	41.0	23	64.0	6.1	5.3	0.8	1.68	0.27	6	43.1	957.8	96.0	88.0	79	1640	9.7
3i	43.0	26	69.0	6.1	5.2	0.5	-	-	-	42.6	796.9	115.5	120.9	67	1640	11.4
37	43.0	20	63.0	5.9	4.7	3.8	-	-	-	30.4	556.3	96.0	56.9	65	1436	5.0
44	24.0	32	56.0	6.6	5.9	0.1	1.68	0.17	10	23.3	494.9	37.4	79.0	76	804	44.1
36	42.0	22	64.0	6.4	5.7	0.3	2.09	0.25	8	32.0	732.7	40.5	27.3	82	1121	16.3
45	40.0	15	55.0	6.1	5.0	0.8	2.03	0.23	9	31.1	648.3	37.0	35.8	75	1238	19.2
41	38.0	21	59.0	6.1	5.3	0.4	2.03	0.24	8	34.6	685.9	33.6	24.0	71	1499	17.6
38	45.0	17	62.0	6.6	4.7	2.5	2.09	-	-	57.5	610.7	80.9	8.0	38	1396	11.3
				5.6	4.7	3.8	2.67	0.34	8	27.9	468.3	32.8	50.8	60	1206	14.6
				6.1	5.2	0.4	1.68	-	-	25.0	457.6	35.2	29.2	65	1415	2.1
39	41.0	20	61.0	5.5	4.6	6.3	3.66	0.33	11	32.9	517.6	70.7	17.9	56	1532	2.1
35	36.0	29	65.0	5.9	4.6	5.5	1.62	0.17	10	29.7	507.0	60.6	7.5	61	1591	tr
40	37.0			5.7	4.4	7.0	4.24	0.34	12	23.0	299.2	5.0	6.6	47	1495	2.1
36	40.0			5.5	4.2	16.0	3.19	0.33	10	26.5	151.4	5.0	7.5	20	1693	3.4
28	39.0			5.5	4.4	10.0	-	-	-	24.0	49.1	5.0	6.6	8	2090	tr

保全 対策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										
					礫 (風 乾 物 中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地 容積 重 g	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	ミ ル ト %	粘 土 %			
雄 武	雄	9	1	0 ~ 15		4.9	4.5	9.7	36.3	46.0	27.6	26.4	LiC		
			2	15 ~ 30		6.2	3.9	11.5	70.7	82.2	12.0	5.8	S L		
	武	25 (10 F)	1	0 ~ 22		3.8	6.8	6.5	29.0	35.5	33.7	30.8	LiC	96.8	
			2	22 ~ 35		3.6	3.9	8.1	35.3	43.4	30.1	26.5	LiC	114.8	
	武	26 (51)	1	0 ~ 15		4.4	5.2	11.3	25.0	36.3	33.0	30.7	LiC	84.8	
			2	15 ~ 35		2.9	1.5	38.6	43.1	81.7	10.4	7.9	S L	105.8	
下 雄 武	下 雄 武	27 (12B)	1	0 ~ 22		6.4	8.7	1.7	19.1	20.8	41.2	38.0	LiC		
			2	22 ~ 37		6.4	2.8	1.9	13.1	15.0	45.2	39.8	SiC		
			3	27 ~ 80		6.3		0.4	10.0	10.4	52.1	37.5	SiC		
	御 西	28 (12)	1	0 ~ 12		7.0	10.5	1.3	17.5	18.8	33.6	47.6	H C	91.8	
			2	12 ~ 42		6.6	3.3	1.1	22.7	23.8	34.5	41.7	LiC	95.8	
			3	42 ~ 65		7.1		0.9	17.9	18.8	38.4	42.8	LiC	97.8	
	元 稲 子 府	29 (12C)	1	0 ~ 15		5.0	14.0	2.5	26.3	28.8	38.0	33.2	LiC	31.8	
			2	15 ~ 40		3.5	6.0	2.6	26.2	28.8	39.9	31.3	LiC	81.8	
		30 (55)	1	0 ~ 13		3.5	6.1	9.5	42.7	52.2	24.1	23.7	C L	94.8	
	2		13 ~ 32		3.4		14.1	50.7	64.8	20.1	15.1	SCL	99.8		
	雄 武	中 畷 内	31 (13)	1	0 ~ 19		2.5	6.7	17.6	20.8	38.4	37.8	23.8	CL	
				2	19 ~ 45		2.6	0.4	23.8	24.1	47.9	32.2	19.9	CL	

性				化 学 性												
おける 理学性 100 cc 容中				P H		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩基置換量 me./100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 cc	H ₂ O	Kcℓ		T-C C %	T-N N %	TC TN		CaO	MgO	K ₂ O			
				5.4	4.2	17.3	2.61	0.30	9	22.8	147.8	5.0	11.8	23	1425	t r
				5.8	4.4	9.5	2.26	0.22	10	23.8	197.1	5.0	11.3	29	1769	t r
37	36.0	27	63.0	5.5	4.4	6.3	3.95	0.41	10	28.2	376.6	22.7	9.4	48	1130	6.2
42	38.0	20	58.0	5.7	4.4	9.8	2.26	0.23	10	21.8	260.5	20.1	7.1	43	1179	5.0
32	37.0			5.6	4.5	4.3	3.02	0.32	9	26.1	432.1	242.8	19.8	59	1137	6.7
40	26.0			5.8	4.5	6.5	0.87	0.11	8	17.4	225.2	15.1	14.6	46	1008	t r
				5.4	4.3	10.0	5.05	0.44	11	46.3	563.3	126.4	40.5	43	1596	7.7
				5.3	4.3	9.8	1.62	0.19	9	39.9	540.1	151.6	17.4	48	1701	4.3
				5.6	4.5	4.0	-	-	-	37.9	535.6	182.0	15.0	50	1636	6.0
37	44.0	19	68.0	5.8	5.9	0.5	6.09	0.60	10	42.9	795.8	136.5	65.4	66	1691	2.2
35	47.0	18	65.0	5.0	4.2	11.3	1.91	0.19	10	38.7	556.3	212.4	15.1	51	1534	t r
34	55.0	11	66.0	5.1	4.1	13.5	-	-	-	37.6	441.3	195.5	13.2	42	1586	t r
14	67.0	19	86.0	5.3	4.4	7.6	8.12	0.60	14	29.0	135.2	105.1	12.2	17	1302	t r
32	56.0	12	68.0	5.3	4.2	11.3	3.48	0.30	12	23.5	103.2	80.9	6.6	16	1127	t r
37.0	48.0	15.0	63.0	5.4	4.2	13.5	3.54	0.33	11	18.9	176.1	30.2	8.9	33	900	t r
37.2	47.0	15.8	62.8	5.4	4.4	17.8	-	-	-	16.4	147.8	20.1	8.9	32	820	t r
				6.1	5.5	0.1	3.89	0.37	11	22.9	422.6	16.7	12.7	66	784	45.1
				5.1	4.1	13.0	0.23	0.02	12	18.1	140.8	5.0	13.2	28	883	19.3

保全 対策 区	土 壌 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学								土 性	現地 に 容 積 重 g
					礫 (風 乾 物 中) %	風乾細土中		細土無機物中						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	ミ ル ト %	粘 土 %		
コ イ ト イ	コ イ ト イ	33 (LP)	1	0 ~ 10		9.2	45.8	0.4	19.2	19.6	35.7	44.7	LiC	
			2	12 ~ 50		10.4	58.4	0.2	8.5	8.7	27.7	63.6	H C	
			3	50 ~ 70		8.6		0.8	10.7	11.5	42.1	46.4	H C	

性				化 学 性												
における物理学性100cc容中				P H		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩基置換量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
固相容重 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 cc	H ₂ O	Kcℓ		T-C %	T-N %	TC/ TN		CaO	MgO	K ₂ O			
								4.7	4.0	6.6	26.58	2.2	12	67.7	295.8	80.9
				4.6	3.5	21.2	33.89	2.4	14	99.0	309.8	111.1	19.3	11	1560	8.9
				4.9	4.1	14.6	-	-	-	74.5	211.1	70.7	1.9	10	1070	1.8